

(様式第 10)

獨医大病庶庶発第 4 9 号
令和元年 1 0 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 獨協学園
理事長 吉 田 謙

獨協医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒340-0042 埼玉県草加市学園町 1 番 1 号
氏 名	学校法人 獨協学園

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

獨協医科大学病院

3 所在の場所

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 8 8 0	電話 (0 2 8 2) 8 6 - 1 1 1 1
----------------------------------	----------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科	○2 消化器内科
5 神経内科	6 血液内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科
診療実績	○4 腎臓内科 7 内分泌内科 8 代謝内科 ○11 リウマチ科

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ☐ 1呼吸器外科 2消化器外科 ☐ 3乳腺外科 4心臓外科 ☐ 5血管外科 ☐ 6心臓血管外科 7内分泌外科 ☐ 8小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

☐ 1精神科 ☐ 2小児科 ☐ 3整形外科 ☐ 4脳神経外科 ☐ 5皮膚科 ☐ 6泌尿器科 ☐ 7産婦人科 8産科 9婦人科 ☐ 10眼科 11耳鼻咽喉科 ☐ 12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ☐ 15麻酔科 ☐ 16救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 ☐ 1小児歯科 ☐ 2矯正歯科 ☐ 3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1心臓・血管内科 2血液・腫瘍内科 3内分泌代謝内科 4脳神経内科 5呼吸器・アレルギー科 6形成外科・美容外科 7頭頸部・耳鼻咽喉科 8リハビリテーション科 9病理診断科
--

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
4 2 床	床	床	床	1, 1 5 3 床	1, 1 9 5 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	632人	11.7人	643.7人	看 護 補 助 者	105人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	20人	0人	20人	理 学 療 法 士	30人	臨床検査技師	99人
薬 剤 師	85人	0.6人	85.6人	作 業 療 法 士	8人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	44人	3.1人	47.1人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	1,001人	63.7人	1,064.7人	臨 床 工 学 士	22人	医療社会事業従事者	12人
准 看 護 師	1人	2.6人	3.6人	栄 養 士	0人	その他の技術員	46人
歯科衛生士	5人	1.7人	6.7人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	265人
管理栄養士	11人	0人	11人	診療放射線技師	73人	そ の 他 の 職 員	5人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	42人	眼 科 専 門 医	13人
外 科 専 門 医	47人	耳鼻咽喉科専門医	13人
精 神 科 専 門 医	8人	放 射 線 科 専 門 医	13人
小 児 科 専 門 医	22人	脳神経外科専門医	16人
皮 膚 科 専 門 医	12人	整 形 外 科 専 門 医	17人
泌尿器科専門医	13人	麻 酔 科 専 門 医	18人
産婦人科専門医	16人	救 急 科 専 門 医	19人
		合 計	269人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(平田 幸一) 任命年月日 平成29年4月1日

医療安全管理委員会委員
(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	1,005人	17.8人	1,022.8人
1日当たり平均外来患者数	2,088.3人	113.3人	2,201.6人
1日当たり平均調剤数			3,937.5剤
必要医師数			231人
必要歯科医師数			8人
必要薬剤師数			50人
必要（准）看護師数			586人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	1,181m ²	鉄筋 コンクリート	病 床 数	17床
			人工呼吸装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台 数	376m ² 台	病床数 27床
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床 積 共用する室名	54m ²	
化学検査室	615m ²		(主な設備) 全自動生化学分析装置JCA-BM6070 " JCA-BM9130	
細菌検査室	41.63m ²		(主な設備) 全自動細菌検査分析装置マイクロシステム Toxinometer MT-6500、MALDIハイパード	
病理検査室	266m ²		(主な設備) 自動免疫染色装置、感染防止機能付クリオスタット 顕微鏡写真撮影装置、密閉式自動固定包埋装置 自動染色装置、安全キャビネット、感染防止対策用切り出し台	
病理解剖室	80m ²		(主な設備) 感染防止対策用解剖台、医用写真撮影装置 高圧蒸気滅菌器、自動ホルマリン作成装置	
研 究 室	21,154m ²		(主な設備) マルチモードプレートリーダー、4D MV-Assessmentシステム 次世代シークエンサーIon Protonシステム	
講 義 室	288m ²		室数	1室
図 書 室	5,894m ²		室数	1室
			収容定員	238人
			蔵 書 数	250,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		73.9%	逆紹介率		56.4%
算出根拠	A：紹介患者の数		21,509人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19,007人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		3,401人		
	D：初診の患者の数		33,705人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
十川 康広	上都賀総合病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
菊池 不佐男	菊池法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・ 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
飯島 一彦	下野新聞社 常務取締役		医療を受ける者の代表者	有・ 無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
美津島 隆	獨協医科大学 リハビリテーション科学 教授		医療に関する学識経験者	有 ・無	その他
久保田 一徳	獨協医科大学病院 放射線部教授		医療に関する学識経験者	有 ・無	その他

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 ホームページにより公開 (http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/info/68/2954.html)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

[illegible]

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断 不明熱(画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る)	0人
リツキシマブ点滴静注後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	光干渉断層法(OCT)を用いた冠動脈プラーク診断と冠血管形成術	取扱患者数	94人
当該医療技術の概要 光干渉断層法(OCT)により冠動脈プラークの組織性状を診断し、その結果によりバルーン・ステントを選択し、冠血管形成術を行う。こうした方法により冠血管形成術の合併症を予防し、長期予後改善が期待できる。			
医療技術名	血管内視鏡を用いたステント内新生内膜の観察	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 血管内視鏡はステント留置後の新生内膜の性状を直視し、正確に観察することが可能であり、冠血管形成術後の予後予測に重要である。			
医療技術名	IVUSを用いた冠動脈形成術	取扱患者数	413人
当該医療技術の概要 現在IVUSは冠動脈形成術の適応治療戦略決定、至適終了決定に必須なモダリティである。特に我々の使用するバーチャルヒストロジーIVUSは冠動脈形成術後の予後予測に有用である。			
医療技術名	内視鏡的胆管結石除去術	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要 総胆管結石症に対して結石を除去するため行う内視鏡治療			
医療技術名	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 肝臓癌に対して超音波ガイド下に穿刺し電氣的に焼灼、壊死に至らしめる治療			
医療技術名	炎症性腸疾患に対する血球成分除去療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 活動期潰瘍性大腸炎やクローン病患者に対する顆粒球や白血球成分除去療法			
医療技術名	クローン病患者に対するバルーン小腸内視鏡	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 バルーン小腸内視鏡を用いてクローン病の診断や狭窄部治療、治療効果判定を行う			
医療技術名	劇症肝炎に対する血液浄化療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 劇症肝炎患者に対して行う血漿交換や血液濾過透析療法			
医療技術名		取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 20 channel 脳電図LORETA解析による前頭葉機能障害の判定、治療			
医療技術名	重症喘息に対する気管支サーモプラスチック	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 高用量吸入ステロイドや気管支拡張薬などの喘息治療薬併用でもコントロール不良な重症喘息患者に対して、気管支鏡下に高周波プローブを気管支内腔に挿入し温熱処置を加えることで気管支平滑筋量を減少させる治療法である。喘息発作の減少やQOLの改善などの効果が得られる。			
医療技術名	早期肺癌に対する気管支鏡下光線力学療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 内視鏡的早期肺癌に対して、光感受性物質を静注後、気管支鏡下にレーザー照射を行うことで腫瘍を焼灼して治療を行う。			

医療技術名	肺及び胸腔におけるクライオバイオプシー	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 経気管支鏡や経胸腔鏡下に先端が凍結する鉗子を挿入し標的組織を採取することで従来の生検鉗子と比較し病理検体のサイズや深さが大きい検体が採取できるので病理診断率があがる。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	37名(346件)
当該医療技術の概要 難治性うつ病患者や難治性統合失調症患者に対して筋弛緩薬によって痙攣を抑制した状態でサイマトロンを用いて頭部にパルス波を入力する			
医療技術名	食道癌に対する胸腔鏡下食道切除および腹腔鏡補助下胃管再建術	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 食道癌に対して完全鏡視下に食道およびリンパ節を切除し、再建も行う。体壁破壊の軽減により、患者の術後回復の促進が期待できる。			
医療技術名	食道癌に対するDCF併用化学放射線療法	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 食道癌に対して非常に効果の高いDocetaxel, Cisplatin, 5-Fluorouracilの3剤併用化学療法に放射線療法を加えることにより高い奏効率と根治性の獲得が期待できる。			
医療技術名	進行胃癌に対するDCS併用化学療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 進行胃癌に対して従来はあまり行われていなかった化学療法をDocetaxel, Cisplatin, S-1の3剤併用で行うことにより、生存率を延長することが期待できる。			
医療技術名	ダ・ヴィンチ®Xi手術システムを用いた、ロボット支援腹腔鏡下胃癌手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 3D立体画像下で複雑かつ細かな手技が可能で、多関節機能を有し、手ぶれがないため、より安全かつ低侵襲な手術が行うことが可能となる。			
医療技術名	進行下部直腸癌に対する術前化学療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 治療成績の不良な進行下部直腸癌に対して、術前化学療法を行うことにより、根治性の向上が期待できる。			
医療技術名	肝切除	取扱患者数	99人
当該医療技術の概要 肝細胞癌、転移性肝腫瘍、肝内胆管癌、肝門部領域胆管癌などの疾患に対して、肝亜区域切除や拡大肝切除を施行している。肝門部領域胆管癌などに対して大量肝切除が必要な場合は、術後肝不全予防として、門脈塞栓術を施行している。			
医療技術名	臍頭十二指腸切除(肝切除付加)	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要 主に臍頭部癌、遠位部胆管癌、乳頭部癌、十二指腸癌などの疾患に対して施行している。門脈などの脈管侵襲を伴う場合も、血管合併切除や再建も施行している。また、広範囲胆管癌などに対しては、肝切除付加臍頭十二指腸切除も施行している。			
医療技術名	臍体尾部切除	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 主に臍体尾部癌に対して施行している。			
医療技術名	臍全摘術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 主に臍臓癌、臍管内乳頭線癌などの疾患に対して施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 主に肝細胞癌、転移性肝腫瘍に対して、腹腔鏡下肝外側区域切除、部分切除を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下結腸切除	取扱患者数	34人
当該医療技術の概要 結腸癌に対して施行している。			

医療技術名	腹腔鏡下直腸切除	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要			
直腸がんに対して施行している。			
医療技術名	経カテーテル大動脈弁置換術	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
大動脈弁狭窄症に対するカテーテルによる大動脈弁の置換術			
医療技術名	重症心不全に対する左室補助人工心臓植込み(経皮的補助=impellarを含む)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
重症心不全に対する左室補助人工心臓による補助			
医療技術名	3D内視鏡補助下 心臓手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
右小開胸による3D内視鏡補助下に行う心臓手術			
医療技術名	B型急性大動脈解離に対するステントグラフト内挿術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
B型急性大動脈解離に対しステントグラフトを内挿する			
医療技術名	脳死肺移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
脳死ドナーより摘出・搬送した肺を登録してある慢性呼吸不全症例に移植したもの			
医療技術名	重度脊柱変形に対する脊柱骨切り再建術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
先天性側弯症などの重度側弯症に対する前方後方合併脊柱骨切り術を併用した矯正固定術			
医療技術名	肺癌に対する脊椎肺合併切除・脊柱再建術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
脊椎と肋骨に浸潤した肺癌に対して肺-脊椎-肋骨のen bloc切除と脊椎インストゥルメンテーションを用いた脊柱再建を行う			
医療技術名	早期発症側弯症に対するグローイングロッド手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
10歳未満の早期発症重度側弯症に対し、延長可能なロッドシステムを利用した経時的脊柱延長矯正術を行う			
医療技術名	拡大前頭洞手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要			
通常の鼻内内視鏡手術で開放困難な前頭洞病変に対して用いられる手術手技である。			
医療技術名	経鼻的翼突管神経切除術	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要			
保存的加療でコントロール困難な鼻漏患者に対して施行する手術である。			
医療技術名	下咽頭悪性腫瘍手術(頸部、胸部、腹部等の操作による再建を含む)	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要			
進行下咽頭癌に対して行われる耳鼻咽喉科を代表する大手術である(咽喉食摘出術+遊離空腸による再建術)			
医療技術名	広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
前頭蓋底に浸潤した癌に対して脳神経外科、形成外科と合同で手術を行った。			

医療技術名	小耳症・外耳道閉鎖症における、耳介挙上と外耳道・鼓室形成による聴力改善手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
肋軟骨フレームワーク移植で作製した耳介を挙上する際に、外耳道の造設、耳小骨、鼓膜の再建を形成外科と耳鼻科が合同で行う。			
医療技術名	神経血管柄付き遊離筋肉移植による、顔面神経麻痺の動的再建手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
マイクロサージャリー手技を用いた、遊離筋肉移植(主に広背筋)により、陳旧性顔面神経麻痺患者に「笑いの表情」を再建する。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	83
2	筋萎縮性側索硬化症	39	57	特発性拡張型心筋症	105
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	肥大型心筋症	14
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	24	60	再生不良性貧血	36
6	パーキンソン病	321	61	自己免疫性溶血性貧血	4
7	大脳皮質基底核変性症	8	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	79
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	
10	シャルコー・マリー・トゥース病	6	65	原発性免疫不全症候群	6
11	重症筋無力症	104	66	IgA 腎症	14
12	先天性筋無力症候群	1	67	多発性嚢胞腎	16
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	72	68	黄色靱帯骨化症	4
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	19	69	後縦靱帯骨化症	54
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	5
16	クローウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	34
17	多系統萎縮症	54	72	下垂体性ADH分泌異常症	15
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	64	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19	ライソゾーム病	9	74	下垂体性PRL分泌亢進症	8
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	18	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	28
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	91
24	亜急性硬化性全脳炎	3	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	2	82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	5	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	108
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	75
31	ベスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	28
32	自己食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	23
34	神経線維腫症	30	89	リンパ管筋腫症	6
35	天疱瘡	16	90	網膜色素変性症	33
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	
37	膿疱性乾癬(汎発型)	12	92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	4	93	原発性胆汁性肝硬変	19
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	27	95	自己免疫性肝炎	5
41	巨細胞性動脈炎	11	96	クローン病	151
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	339
43	顕微鏡的多発血管炎	43	98	好酸球性消化管疾患	11
44	多発血管炎性肉芽腫症	11	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	10	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞僅少症	
47	パージャール病	5	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	9	103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	277	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	131	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	162	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	41	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	81	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人スチル病	16	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	6	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数	疾患名	患者数	
111	先天性ミオパチー	6	161	家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	1	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	13
113	筋ジストロフィー	30	163	特発性後天性全身性無汗症	4
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群		164	眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺	2	165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎		166	弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	5	167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群		169	メンケス病	
120	遺伝性ジストニア		170	オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症		171	ウィルソン病	4
122	脳表ヘモジデリン沈着症		172	低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症		173	VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症		174	那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	1	175	ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群		176	コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	2	177	有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎		178	モワット・ウィルソン症候群	1
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症		179	ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症	1	180	ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病		181	クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺		182	アペール症候群	
133	メビウス症候群		183	ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	184	アントレー・ビクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群		185	コフィン・シリス症候群	1
136	片側巨脳症		186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成		187	歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症		188	多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症		189	無脾症候群	
140	ドラベ症候群		190	鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	191	ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠神てんかん		192	コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん		193	ブラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	2	194	ソトス症候群	
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	
146	大田原症候群		196	ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症		197	1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん		198	4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群		199	5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群		200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎		201	アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群		202	スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎		203	22q11.2欠失症候群	1
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症		204	エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群		205	脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群		206	脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群		207	総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	3	208	修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症		209	完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬		210	単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症	260	シトステロール血症	1
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	262	原発性高カイトロミクロン血症	
215	ファロー四徴症	263	脳髄黄色腫症	
216	両大血管右室起始症	264	無 β リボタンパク血症	
217	エプスタイン病	265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群	266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モフト症候群	267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	271	強直性脊椎炎	4
224	紫斑病性腎炎	272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	274	骨形成不全症	
227	オスラー病	275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎	276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	1
230	肺胞低換気症候群	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	283	後天性赤芽球癆	4
236	偽性副甲状腺機能低下症	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症	288	自己免疫性出血病XIII	1
241	高チロシン血症1型	289	クローンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症	292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症	293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症	294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症	295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症	296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型	297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型	298	遺伝性膀胱炎	1
251	尿素サイクル異常症	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症	300	IgG4関連疾患	11
253	先天性葉酸吸収不全	301	黄斑ジストロフィー	
254	ボルフィリン症	302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病	304	若年発症型両側性感音難聴	1
257	肝型糖原病	305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	306	好酸球性副鼻腔炎	95

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌスてんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群	1	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料 (一般病棟 7対1入院基本料)(精神病棟 13対1入院基本料)	救命救急入院料3 ・救急体制充実加算2
超急性期脳卒中心加算	救命救急入院料4 ・救急体制充実加算2
診療録管理体制加算1	特定集中治療室管理料3 ・小児加算
医師事務作業補助体制加算1(75対1補助体制加算)	総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児集中治療室管理料)(新生児集中治療室管理料)
急性期看護補助体制加算(50対1補助体制加算)	新生児治療回復室入院医療管理料
看護職員夜間配置加算(看護職員夜間12対1配置加算1)	小児入院医療管理料1 ・プレイルーム加算
療養環境加算	地域歯科診療支援病院歯科初診料
無菌治療室管理加算1	歯科外来診療環境体制加算2
無菌治療室管理加算2	歯科診療特別対応連携加算
緩和ケア診療加算	入院時食事療養(I)
精神科身体合併症管理加算	・
精神科リエゾンチーム加算	・
摂食障害入院医療管理加算	・
栄養サポートチーム加算	・
医療安全対策加算1	・
感染防止対策加算1 ・感染防止対策地域連携加算 ・抗菌薬適正使用支援加算	・
患者サポート体制充実加算	・
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
ハイリスク妊娠管理加算	・
ハイリスク分娩管理加算	・
呼吸ケアチーム加算	・
後発医薬品使用体制加算3	・
データ提出加算(データ提出加算2のイ)	・
入退院支援加算(入退院支援加算1のイ) ・入院時支援加算	・
認知症ケア加算2	・
精神科急性期医師配置加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
糖尿病合併症管理料	検体検査管理加算(Ⅳ)
がん性疼痛緩和指導管理料	国際標準検査管理加算
がん患者指導管理料イ	遺伝カウンセリング加算
がん患者指導管理料ロ	時間内歩行試験
がん患者指導管理料ハ	胎児心エコー法
外来緩和ケア管理料	ヘッドアップティルト試験
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	長期継続頭蓋内脳波検査
糖尿病透析予防指導管理料	神経学的検査
外来放射線照射診療料	補聴器適合検査
ニコチン依存症管理料	ロービジョン検査判断料
がん治療連携計画策定料	コンタクトレンズ検査料1
肝炎インターフェロン治療計画料	小児食物アレルギー負荷検査
排尿自立指導料	内服・点滴誘発試験
ハイリスク妊産婦連携指導料1	画像診断管理加算1
ハイリスク妊産婦連携指導料2	ポジトロン断層撮影
薬剤管理指導料	ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
医療機器安全管理料1	CT撮影及びMRI撮影
医療機器安全管理料2	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料	外来化学療法加算1
在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	無菌製剤処理料
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
在宅経肛門的自己洗腸指導管理料	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
遺伝学的検査	運動器リハビリテーション料(Ⅱ)(歯科のみ)
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
検体検査管理加算(Ⅰ)	がん患者リハビリテーション料
集団コミュニケーション療法料	胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)

集団コミュニケーション療法料	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	①単純全摘術 ②悪性腫瘍手術
医療保護入院等診療料	体外衝撃波胆石破碎術
エタノールの局所注入(甲状腺)	腹腔鏡下肝切除術
エタノールの局所注入(副甲状腺)	生体部分肝移植術
人工腎臓	腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
導入期加算1	腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
磁気による膀胱等刺激法	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
センチネルリンパ節加算	同種死体腎移植術
皮膚移植術(死体)	生体腎移植術
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	膀胱水圧拡張術
骨移植術(軟骨移植術を含む。) (自家培養軟骨移植術に限る。)	人工尿道括約筋植込・置換術
後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	腹腔鏡下仙骨腫固定術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	胎児胸腔・羊水腔シャント術
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	輸血管理料Ⅱ
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	貯血式自己血輸血管理体制加算
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	麻酔管理料(Ⅰ)
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	麻酔管理料(Ⅱ)
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	放射線治療専任加算
肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	外来放射線治療加算
同種死体肺移植術	高エネルギー放射線治療
生体部分肺移植術	1回線量増加加算
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	強度変調放射線治療(IMRT)
	画像誘導放射線治療(IGRT)
	定位放射線治療

経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	画像誘導密封小線源治療加算
胸腔鏡下弁形成術	病理診断管理加算1
経カテーテル大動脈弁置換術	病理診断管理加算2
胸腔鏡下弁置換術	悪性腫瘍病理組織標本加算
経皮的中隔心筋焼灼術	歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	医療機器安全管理料(歯科)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	精密触覚機能検査
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	歯科口腔リハビリテーション料2
植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術	CAD/CAM冠
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	歯周組織再生誘導手術
補助人工心臓	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	歯根端切除手術の注3
腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等	クラウン・ブリッジ維持管理料
腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) ①単純切除術 ②悪性腫瘍切除術	歯科矯正診断料 顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) ①単純切除術 ②悪性腫瘍切除術	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・前眼部三次元画像解析	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	○1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	平成30年度 :CPC 5回 症例検討会 60回 計65回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 22例 / 剖検率 2.8%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
RUNX1-EVI1転座型白血病の分子機構の解析	三谷 絹子	内科学（血液・腫瘍）	700,000	（補委）日本学術振興会
hPa スライム再活性化による抗腫瘍効果の機序とその最適化点の解明	瀬尾 幸子	内科学（血液・腫瘍）	1,400,000	（補委）日本学術振興会
神経変性疾患における血清インスリン様成長因子1と臨床症候との関連	鈴木 圭輔	内科学（神経）	600,000	（補委）日本学術振興会
CD206陽性マクロファージが肥満に合併する肝腫瘍に与える経時的影響とその機序	薄井 勲	内科学（内分泌代謝）	400,000	（補委）日本学術振興会
肺微小環境再生に関与する脂質の解析	清水 泰生	内科学（呼吸器・アレルギー）	400,000	（補委）日本学術振興会
TFH細胞機能制御を利用した全身性エリテマトーデスの治療法開発に関する基盤的研究	倉沢 和宏	内科学（リウマチ・膠原病）	1,200,000	（補委）日本学術振興会
自己免疫疾患の特異的免疫記憶の分子機構の解明と治療戦略の開発	有馬 雅史	内科学（リウマチ・膠原病）	1,300,000	（補委）日本学術振興会
TFH細胞機能制御を利用した自己免疫性間質性肺炎の治療法開発に関する基盤的研究	新井 聡子	内科学（リウマチ・膠原病）	1,200,000	（補委）日本学術振興会
母集団薬物動態解析によるうつ病治療に臨床応用可能な抗うつ薬エナントオマーの探索	下田 和孝	精神神経医学	1,200,000	（補委）日本学術振興会
Vitamin D補充による認知機能低下抑制治療法の検討	大曾根 彰	精神神経医学	800,000	（補委）日本学術振興会
構造方程式モデリングを用いて統合失調症末梢血の研究成果を統合し、病態解明に繋げる	尾関 祐二	精神神経医学	1,100,000	（補委）日本学術振興会
統合失調症と診断されている二ーマンピック病C型の調査及び非侵襲的鑑別法の検討	藤井 久彌子	精神神経医学	1,400,000	（補委）日本学術振興会
LAT1を標的分子とした胸腺癌における新たな治療戦略の開発	千田 雅之	呼吸器外科学	1,200,000	（補委）日本学術振興会
腎細胞癌における代謝リプログラミングと免疫回避の解析	釜井 隆男	泌尿器科学	1,000,000	（補委）日本学術振興会
酸化・窒素化ストレスによる嗅粘膜分泌異常への関与一気道リモデリングの嗅粘膜障害	春名 眞一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,200,000	（補委）日本学術振興会
視床下部A11における下行性疼痛抑制系の研究	小澤 継史	麻酔科学	2,000,000	（補委）日本学術振興会
骨髄幹細胞由来高悪性度口腔扁平上皮癌発生機序の解明と臨床的意義	川又 均	口腔外科学	1,200,000	（補委）日本学術振興会
口腔癌のCXCR4システムを介した転移機構における分泌型miRNAの役割	内田 大亮	口腔外科学	900,000	（補委）日本学術振興会
mGluR5特異的経口阻害剤RG7090による口腔癌の転移抑制療法の開発	栗林 伸行	口腔外科学	900,000	（補委）日本学術振興会
脂肪細胞の分化およびアディポカイン作用に関わるヒト特異的分子の探索	栗林 恭子	口腔外科学	1,600,000	（補委）日本学術振興会
骨組織維持機構の解明による新規骨粗鬆症治療戦略の構築	小宮山 雄介	口腔外科学	900,000	（補委）日本学術振興会
IgG4関連疾患の新規診断法を目指した疾患特異的miRNAの同定	土田 修史	口腔外科学	1,100,000	（補委）日本学術振興会
膜輸送関連蛋白質alpha-taxilinの消化管発癌における役割	今井 康雄	病理診断学	1,100,000	（補委）日本学術振興会
心大血管疾患患者の筋萎縮、サルコペニアとその対策としての新規リハビリ法の検討	中島 敏明	ハートセンター	2,600,000	（補委）日本学術振興会
間質性膀胱炎における膀胱上皮再生のマスター転写因子の同定	山西 友典	排泄機能センター	700,000	（補委）日本学術振興会
マイクロRNA発現解析に基づいた間質性膀胱炎の発症メカニズムの解明	布施 美樹	排泄機能センター	1,300,000	（補委）日本学術振興会

小計20件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
悪性リンパ腫の放射線治療による免疫応答機序の解明と効果予測法の開発	江島 泰生	放射線医学	1,100,000	補委 日本学術振興会
特発性造血障害に関する調査研究	三谷 絹子	内科学（血液・腫瘍）	12,303,000	補委 厚生労働省
種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割の解明とそれによる患者ケアの向上	平田 幸一	内科学（神経）	6,370,000	補委 厚生労働省
じん肺エックス線写真による診断精度向上に関する研究	荒川 浩明	放射線医学	代表者一括計上	補委 厚生労働省
アレルギー疾患に対する保健指導マニュアル開発のための研究	吉原 重美	小児科学	280,000	補委 厚生労働省
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	種市 洋	整形外科	250,000	補委 厚生労働省
献体による効果的医療技術教育システムの普及促進に関する研究	種市 洋	整形外科	代表者一括計上	補委 厚生労働省
好酸球性副鼻腔炎における治療指針作成とその普及に関する研究	春名 眞一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	代表者一括計上	補委 厚生労働省
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究	山口 重樹	麻酔科学	10,000,000	補委 厚生労働省
非癌、慢性炎症性リンパ節・骨髄以上を示すキャッスルマン病、TAFRO症候群その類縁疾患の診断基準、重症度分類の改正、診断・治療のガイドラインの策定に関する調査研究	小島 勝	病理診断学	100,000	補委 厚生労働省
間質性膀胱炎の患者登録と診療ガイドラインに関する研究	山西 友典	排泄機能センター	代表者一括計上	補委 厚生労働省
乳がん治療における心臓合併症の新たなリスク因子の解明と早期診断法と評価法標準化の確立	豊田 茂	内科学（心臓・血管）	400,000	補委 AMED
TP53遺伝子変異陽性骨髄異形成症候群に対する新規治療戦略	三谷 絹子	内科学（血液・腫瘍）	273,000	補委 AMED
オミクス解析技術と人工知能技術による難治性造血器疾患の病因解明と診断向上に貢献する解析基盤の開発	三谷 絹子	内科学（血液・腫瘍）	900,000	補委 AMED
NY-ESO-1抗原特異的TCR遺伝子導入Tリンパ球輸注による同種移植後再発難治性成人T細胞白血病リンパ腫を対象とした多施設共同臨床第Ⅰ相医師主導治験	瀬尾 幸子	内科学（血液・腫瘍）	538,338	補委 AMED
本邦における同種造血幹細胞移植の最適化を目指した移植医療体制の確立と国際的視点からのHarmonizationに関する研究	瀬尾 幸子	内科学（血液・腫瘍）	515,540	補委 AMED
薬物乱用頭痛における抑肝散の有効性の検討	平田 幸一	内科学（神経）	500,000	補委 AMED
新規分子標的薬による皮膚障害の調査および重症化予防の研究	井川 健	皮膚科学	845,000	補委 AMED
小児からAYA世代頭蓋外胚細胞腫瘍の治療毒性低減を目指した国際共同臨床試験	佐藤 雄也	小児科学	520,000	補委 AMED
B型肝炎ウイルスRNAと相互作用する宿主因子の網羅的同定とその制御による病態制御法開発	青木 琢	第二外科学	3,200,000	補委 AMED
医師主導治験の実施の支援及び推進に関する研究	種市 洋	整形外科	819,514	補委 AMED
咽頭・喉頭・気管狭窄症診療ガイドライン作成を目指したエビデンス創出研究	平林 秀樹	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	390,000	補委 AMED
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の原因となる難病の診療向上に向けた、疾患横断的な全国多施設レジストリ研究	深美 悟	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	325,000	補委 AMED
非培養自己ヒト皮下脂肪組織由来再生（幹）細胞による腹圧性尿失禁に対する再生治療の開発研究（治験実施）	山西 友典	排泄機能センター	2,500,000	補委 AMED

小計20件

合計50件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Otani R, Uzuka T, Higuchi F, et al.	脳神経外科	IDH-mutated astrocytomas with 19q-loss constitute a subgroup that confers better prognosis.	Cancer Sci. 2018 Jul;109(7):2327-2335. doi: 10.1111/cas.13635. Epub 2018 Jun 15.	Original Article
2	Nambu S, Otani R, Uzuka T, et al.	脳神経外科	Histology of hemangioblastoma treated with stereotactic radiosurgery confirms its effectiveness.	J Clin Neurosci. 2018 May;51:43-45. doi: 10.1016/j.jocn.2018.02.00 3. Epub 2018 Feb 23.	Original Article
3	Otani R, Uzuka T, Matsuda H, et al.	脳神経外科	Brain invasion by chronic lymphocytic leukemia.	Neuropathology. 2019 Feb;39(1):54-57. doi: 10.1111/neup.12525. Epub 2018 Nov 25	Case report
4	Yamanishi T,Asakura H,Seki N, et al	排泄機能センター	A 52-week multicenter randomized controlled study of the efficacy and safety of add-on dutasteride and imidafenacin to tamsulosin in patients with benign prostatic hyperplasia with remaining overactive bladder symptoms.(DrecT	Lower Urinary Symptoms 2018;Oct.24 doi:10.1111/luts.12243	Original Article
5	Yamanishi T,Suzuki T,Sato R, et al.	排泄機能センター	Effects of magnetic stimulation on urodynamic stress incontinence refractory to pelvic floor muscle training in a randomized sham-controlled study.	Lower Urinary Symptoms 2019;Jan.11 doi:10.1111/luts.12197	Original Article
6	Yamanishi T	排泄機能センター	Editorial Comment from Dr Yamanishi to long-term safety and efficacy of the novel β 3-adrenoreceptor agonist vibegron in Japanese patients bladder: a phase III prospective study	International Journal of Urology 2018;Jun.25 doi:10.1111/iju.13714	Case report

7	Suzuki K, Okuma Y, Uchiyama T, et al.	脳神経内科	The prevalence, course and clinical correlates of migraine in Parkinson's disease: A multicentre case-controlled study.	Cephalalgia. 2018 Aug;38(9):1535-1544. doi: 10.1177/0333102417739302. Epub 2017 Oct 26.	Original Article
8	Suzuki K, Miyamoto M, Miyamoto T, et al.	脳神経内科	Cerebrospinal fluid orexin-A levels in systemic lupus erythematosus patients presenting with excessive daytime sleepiness.	Lupus. 2018 Oct;27(11):1847-1853. doi: 10.1177/0961203318778767. Epub 2018 May 31.	Original Article
9	Matsubara T, Suzuki K, Fujita H, et al.	脳神経内科	Restless legs syndrome, leg motor restlessness and their variants in patients with Parkinson's disease and related disorders.	J Neurol Sci. 2018 Oct 15;393:51-57. doi: 10.1016/j.jns.2018.08.007. Epub 2018 Aug 7.	Original Article
10	Matsubara T, Suzuki K, Fujita H, et al.	脳神経内科	Autonomic Symptoms Correlate with Non-Autonomic Non-Motor Symptoms and Sleep Problems in Patients with Parkinson's Disease.	Eur Neurol. 2018;80(3-4):193-199. doi: 10.1159/000495797. Epub 2018 Dec 20.	Original Article
11	Suzuki K, Suzuki S, Haruyama Y, et al.	脳神経内科	Restless legs syndrome is associated with headache-related disabilities in patients with migraine: a prospective 7-year follow-up study.	Eur J Neurol. 2019 Feb;26(2):238-245. doi: 10.1111/ene.13796. Epub 2018 Sep 24	Original Article
12	Shiina T, Suzuki K, Okamura M, et al.	脳神経内科	Restless legs syndrome and its variants in acute ischemic stroke.	Acta Neurol Scand. 2019 Mar;139(3):260-268. doi: 10.1111/ane.13055. Epub 2018 Dec 3.	Original Article
13	Tsukahara Y, Takekawa H, Iwasaki A, et al.	脳神経内科	Utility of plain chest computed tomography in diagnosing cardioembolic stroke due to paroxysmal atrial fibrillation.	Dokkyo J Med Sci. 46(1): 1-7, 2019	Original Article
14	Suzuki K, Matsubara T, Sakuramoto H, et al.	脳神経内科	Uncomfortable and unpleasant sensations in the legs without an urge to move as the initial manifestation of Parkinson's disease.	Sleep Biol Rhythms. 16(3): 369-370, 2018 Jul	Case report

15	Hoshiyama E, Kokubun N, Hirata K	脳神経内科	Traumatic brachial plexopathy in a patient with off-state Parkinson disease.	Neurology and Clinical Neuroscience. 7: 40-42, 2018 Oct	Case report
16	Saiki M, Matsubara T, Suzuki K, et al.	脳神経内科	Conjugate eye deviation due to pontine infarction: Report of 2 cases.	eNeurologicalSci. 2018 Mar 23;11:1-2. doi: 10.1016/j.ensci.2018.03.001 eCollection 2018 Jun.	Case report
17	Suzuki K, Fujita H, Matsubara T, et al.	脳神経内科	Non-motor symptoms in postural instability/gait difficulty subtype in the early stage of Parkinson's disease.	Eur J Neurol. 2019 Mar;26(3):e37. doi: 10.1111/ene.13828.	Letter
18	Sakamoto T, Saito Y, Nakamura F, et al.	第一外科	Short-term outcomes following endoscopic submucosal dissection of large protruding colorectal neoplasms	Endoscopy. 2018 Jun;50(6):606-612. doi: 10.1055/s-0043-123578. Epub 2017 Dec 13.	Original Article
19	Nakajima M, Kato H, Muroi H, et al.	第一外科	Minimally Invasive Salvage Operations for Esophageal Cancer after Definitive Chemoradiotherapy	Digestion. 2018;97(1):64-69. doi: 10.1159/000484034.	Original Article
20	Matsudera S, Nakajima M, Takahashi M, et al.	第一外科	Laparoscopic surgery for a Bochdalek hernia triggered by pregnancy in an adult woman: A case report	Int J Surg Case Rep. 2018;48:10-15. doi: 10.1016/j.ijscr.2018.04.028. Epub 2018, May 1.	Original Article
21	Watanabe S, Matsudera S, Yamaguchi T, et al.	第一外科	Waardenburg syndrome with isolated deficiency of myenteric ganglion cells at the sigmoid colon and rectum	Pediatr Rep. 2018 May 24;10(2):7500. doi: 10.4081/pr.2018.7500. eCollection 2018 May 24.	Original Article
22	Muroi H, Nakajima M, Kikichi M, et al.	第一外科	Effectiveness of Anti-PD-1 Antibody Monotherapy for the Primary Malignant Melanoma of the Esophagus : A Case Report	DOKKYO JOURNAL OF MEDICAL SCIENCES, 2018 Jul, 45(2), 73-79	Case report

23	Nakajima M, Muroi H, Kikuchi M, et al.	第一外科	Salvage esophagectomy combined with partial aortic wall resection following thoracic endovascular aortic repair.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2018 Dec;66(12):736-743. doi: 10.1007/s11748-018-1013-z. Epub 2018 Sep 15.	Original Article
24	Nakajima M, Muroi H, Yokoyama H, et al.	第一外科	18 F-Fluorodeoxyglucose positron emission tomography can be used to determine the indication for endoscopic resection of superficial esophageal cancer.	Cancer Med. 2018 Aug;7(8):3604-3610. doi: 10.1002/cam4.1628. Epub 2018 Jun 28.	Original Article
25	Yamaguchi S, Ogata H, Katsumata D, et al.	第一外科	Early Serum Carcinoembryonic Antigen Reduction Predicts Tumor Shrinkage and Overall Survival in Colorectal Cancer Patients with Distant Metastasis, after Primary Surgery Followed by Mfolfox6 Plus Bevacizumab Treatment	Open Journal of Gastroenterology, 2018 Apr, 8, 147-153	Original Article
26	Yamaguchi S, Shida Y, Ihara K, et al.	第一外科	Base Excess and White Blood Cell Counts Predict Bowel Gangrene in Japanese Sigmoid Colon Volvulus Patients	Open Journal of Gastroenterology, 2018 Apr, 8, 140-146	Original Article
27	Shimizu Taro.	総合診療科	Severe Hyperkyphosis	Intern Med. 2018 Aug; 57:2281.	Original Article
28	Harada Yukinori, Komori Itsumi, Morinaga Kohei, et al.	総合診療科	Microangiopathic haemolytic anaemia with thrombocytopenia induced by vitamin B12 deficiency long term after gastrectomy	BMJ Case Rep. 2018 Sep (オンライン)	Case report
29	Harada Yukinori, Hayashi Minato.	総合診療科	Severe leptospirosis in a patient with positive serological test for spotted fever rickettsiosis.	BMJ Case Rep. 2019 Jan (オンライン)	Case report

30	Hirosawa Takanobu, Shimizu Taro.	総合診療科	Osmotic demyelination syndrome due to hyperosmolar hyperglycemia.	Cleve Clin J Med. 2018 Jul; 85: 511-3.	Case report
31	Okayasu H, Ozeki Y, Fujii K, et al.	精神神経科	Investigation of the Proarrhythmic Effects of Antidepressants according to QT Interval, QT Dispersion and T Wave Peak-to-End Interval in the Clinical Setting.	Psychiatry Investigation. 2019 Feb;16(2):159-166. doi: 10.30773/pi.2018.12.11. Epub 2019 Feb 21.	Original Article
32	Kawamata Y, Ehara A, Yamaguchi T, et al.	精神神経科	Repeated mild shaking of neonates induces transient cerebral microhemorrhages and anxiety-related behavior in adult rats.	Neurosci Lett. 2018 Sep 25;684:29-34. doi: 10.1016/j.neulet.2018.06.059. Epub 18 Jul 2.	Original Article
33	Yano H, Horinaka S, Ishimitsu T	循環器・腎臓内科	Impact of everolimus-eluting stent length on long-term clinical outcomes of percutaneous coronary intervention.	J Cardiol. 2018 May;71(5):444-451. doi: 10.1016/j.jjcc.2017.10.011.	Original Article
34	Yonezawa Y, Horinaka S, Shirakawa C, et al.	循環器・腎臓内科	Estimated glomerular filtration ratio is a better index than creatinine clearance (Cockcroft-Gault) for predicting the prevalence of atrial fibrillation in the general Japanese population.	Hypertens Res. 2018 Jun;41(6):451-459. doi: 10.1038/s41440-018-0032-6.	Original Article
35	Tojo A, Hatakeyama S, Nangaku M, et al.	循環器・腎臓内科	H ⁺ -ATPase blockade reduced renal gluconeogenesis and plasma glucose in a diabetic rat model.	Med Mol Morphol. 2018 Jun;51(2):89-95. doi: 10.1007/s00795-017-0175-6.	Original Article
36	Nagase A, Ishimitsu T, Furuichi M, et al.	循環器・腎臓内科	Comparisons of Therapeutic Effects of Allopurinol and Febuxostat in Chronic Hemodialysis Patients.	Dokkyo J Med Sci 2019 Mar, 46(1): 17-27.	Original Article
37	Ishimitsu T	循環器・腎臓内科	Ninth Hypertension Research Award for authors of outstanding papers in Hypertension Research.	Hypertens Res. 2018 Dec;41(12):991-992.	Others

38	Murayama Y, Uchida M, Tojo A, et al.	循環器・腎臓内科	Electron microscopy of urinary sediments in Fabry disease.	Kidney Int. 2018 Oct;94(4):834.	Case report
39	Kiuchi K, Hasegawa K, Ochiai S, et al	産婦人科	Liposarcoma of the uterine corpus: A case report and literature review.	Gynecol Oncol Rep. 2018 Oct 22;26:78-81.	Case report
40	Kobayashi S, Matsumura Y, Karube Y, et al.	呼吸器外科	Inflammation-Based Prognostic Score Predicts Postoperative Survival of Patients with Interstitial Pneumonia After Undergoing Lung	World J Surg 42(7): 2143-2152, 2018.7	Original Article
41	Maeda S, Nakazato Y, Hayashi K, et al.	呼吸器外科	L-Type Amino Acid Transporter 1 Immunoreactivity as a Possible Diagnostic and Prognostic Marker of Thymic Carcinoma	Tohoku J Exp Med 246(3): 167-174, 2018.11	Original Article
42	Nishihira M, Nakazato Y, Tsuchida S, et al.	呼吸器外科	Nuclear Morphometry of Lung Squamous Cell Carcinomas in Cytologic Study	Ann Thorac Cardiovasc Surg 24(6): 303-307, 2018.12	Original Article
43	Nishihira M, Nakazato Y, Maeda S, et al.	呼吸器外科	Impact of tumor infiltrating lymphocytes and lymphoid follicle formation on patient survival following surgery for lung squamous cell	Thoracic Cancer 10: 219-225, 2019.2	Original Article
44	Chida M	呼吸器外科	Why non-grasping-lymphadenectomy technique is necessary for lung cancer resection?	J Thorac Dis 11(1): 57-58, 2019.1	Others
45	Seo S, Xie H, Leisenring WM, et al.	血液・腫瘍内科	Risk factors for parainfluenza virus lower respiratory tract disease after hematopoietic cell transplantation.	Biol Blood Marrow Transplant. 2019 Jan;25(1):163-171.	Original Article

46	Nakamura Y, Ichikawa M, Oda H, et al.	血液・腫瘍内科	RUNX1-EVI1 induces dysplastic hematopoiesis and acute leukemia of the megakaryocytic lineage in mice.	Leuk Res. 2018 Nov;74:14-20. doi: 10.1016/j.leukres.2018.09.015. Epub 2018 Sep 26. Leukemia Res 74, 14-20.	Original Article
47	Masaya Imanishi, Hirotaka Asato, Kohei Umekawa, et al.	形成外科・美容外科	Adipose-derived mesenchymal stem cells improve both spontaneous pain and allodynia in a rat neuropathic pain model.	Dokkyo Journal of Medical Sciences. 2018 Oct; 45(3): 119-125	Original Article
48	Ito S, Sairenchi T, Machida T, et al.	眼科	Reduced aqueous humour ascorbic-acid concentration in women with smaller anterior chamber depth.	Sci Rep. 2019 Jan 23;9(1):372.	Original Article
49	Arai R, Soda S, Okutomi T et al.	呼吸器・アレルギー内科	Lipid Accumulation in Peripheral Blood Dendritic Cells and Anticancer Immunity in Patients with Lung Cancer.	J Immunol Res. 2018 Apr 11;2018:5708239.	Original Article
50	Ishizuka M, Shibuya N, Takagi K, et al.	第二外科	Gastrografin reduces the need for additional surgery in postoperative small bowel obstruction patients without long tube insertion: A meta-analysis.	Ann Gastroenterol Surg. 2018 Dec 17;3(2):187-194.	Original Article
51	Shibuya N, Ishizuka M, Takagi K, et al.	第二外科	Relationship Between Preoperative Erythrocyte Sedimentation Rate and Survival After Surgery in Patients with Colorectal Cancer.	Anticancer Res. 2018 Dec;38(12):6783-6788. doi: 10.21873/anticancer.13049.	Original Article
52	Hachiya H, Ishizuka M, Takagi K, et al.	第二外科	Clinical significance of the globulin-to-albumin ratio for prediction of postoperative survival in patients with colorectal cancer.	Ann Gastroenterol Surg. 2018 Aug 29;2(6):434-441. doi: 10.1002/ags3.12201. eCollection 2018 Nov.	Original Article
53	Sakuraoka Y, Suzuki T, Tanaka G, et al.	第二外科	A case of obstructive jaundice due to early carcinoma of the cystic duct protruding into the common bile duct.	Int J Surg Case Rep. 2018;52:28-34. doi: 10.1016/j.ijscr.2018.09.043. Epub 2018 Oct 4.	Case report

54	Shimizu T, Aoki T, Mori S, et al.	第二外科	Tumor DNA-dependent protein kinase catalytic subunit expression is associated with hepatitis B surface antigen status and tumor progression in patients with hepatocellular carcinoma.	Sci Rep. 2018 Oct 9;8(1):15019. doi: 10.1038/s41598-018-33427-6.	Original Article
55	Sakuraoka Y, Suzuki T, Tanaka G, et al.	第二外科	Hepatic myomatous angiomyolipoma diagnosed preoperatively from specific imaging features: A case report.	Int J Surg Case Rep. 2018;51:404-408. doi: 10.1016/j.ijscr.2018.09.022. Epub 2018 Sep 17.	Case report
56	Shimizu T, Ishizuka M, Shibuya N, et al.	第二外科	Preoperative globulin-to-albumin ratio predicts outcome after curative resection in patients with gastric cancer.	Ann Gastroenterol Surg. 2018 Aug 31;2(5):367-375. doi: 10.1002/ags3.12200. eCollection 2018 Sep.	Original Article
57	Shimizu T, Ishizuka M, Suzuki T, et al.	第二外科	The Value of the C-Reactive Protein-to-Albumin Ratio is Useful for Predicting Survival of Patients with Child-Pugh Class A Undergoing Liver Resection for Hepatocellular Carcinoma.	World J Surg. 2018 Jul;42(7):2218-2226. doi: 10.1007/s00268-017-4446-0.	Original Article
58	Kokubu S, Eddinger KA, Yamaguchi S, et al.	麻醉科	Characterization of Analgesic Actions of the Chronic Intrathecal Infusion of H-Dmt-D-Arg-Phe-Lys-NH ₂ in Rat.	Neuromodulation. 2019 Feb 22. doi: 10.1111/ner.12925.	Original Article
59	Komatsuzaki M, Takasusuki T, Yamaguchi S.	麻醉科	Impact of thoracic epidural sympathetic block on cardiac repolarization.	Local Reg Anesth. 2018 Oct 16;11:81-85. doi: 10.2147/LRA.S182402. eCollection 2018. Local Reg Anesth 2018;11:81-85.	Original Article
60	Kokubu S, Eddinger KA, Nguyen TM, et al.	麻醉科	Characterization of the antinociceptive effects of intrathecal DALDA peptides following bolus intrathecal delivery.	Scand J Pain. 2019 Jan 28;19(1):193-206. doi: 10.1515/sjpain-2018-0120.	Original Article

61	Yamashita Y, Takasusuki T, Kimura Y, et al.	麻醉科	Effects of Neostigmine and Sugammadex for Reversal of Neuromuscular Blockade on QT Dispersion Under Propofol Anesthesia: A Randomized Controlled Trial.	Cardiol Ther. 2018 Dec;7(2):163-172. doi: 10.1007/s40119-018- 0119-9. Epub 2018 Sep 14.	Original Article
62	Hamaguchi S.	麻醉科	Introduction of a modified double- lumen tube.	J Anesth. 2018 Aug;32(4):652. doi: 10.1007/s00540-018- 2511-y. Epub 2018 May 22. J Anesth 2018: 32: 652.	Letter
63	Uchida D, Kuribayashi N, Kinouchi M, et al.	口腔外科学	Effect of a novel orally bioavailable CXCR4 inhibitor, AMD070, on the metastasis of oral cancer cells.	Oncology Reports 2018 Jul; 40: 303-8.	Original Article
64	Tsuchida S, Wakui T, Okubo M, et al.	口腔外科学	Oral and maxillofacial symptoms of patients with IgG4-related disease: the meaning of a labial minor salivary gland biopsy.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery Medicine and Pathology 2018 Sep; 30: 439-44.	Original Article
65	Hakata K, Okubo M, Hasegawa T, et al.	口腔外科学	Alterations of serum vitamin K levels and prothrombin time- international normalized ratio during tooth extractions among patients receiving.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery Medicine and Pathology 2018 Nov; 30: 550-3.	Original Article
66	Kinouchi M, Izumi S, Nakashiro K, et al.	口腔外科学	Determination of the origin of oral squamous cell carcinoma by microarray analysis: squamous epithelium or minor salivary gland?	International Journal of Cancer 2018 Nov; 143: 2551-60.	Original Article
67	<u>Hajime</u> Kuroda, Nozomi Muroi, Mitsuhiro Hayashi, et al.	病理診断学	Oestrogen receptor- negative/progesteron e receptor-positive phenotype of invasive breast carcinoma in Japan:re-evaluated using immunohistochemical staining.	Breast Cancer 2019 March;26(2):249-254	Original Article

68	Imataka G, Yoshihara S	小児科	Efficacy of Single Administration of High-dose Phenobarbital Suppository as Initial Therapy for Benign Infantile Convulsions with Mild Gastroenteritis	Iran J Public Health. 2018 Apr; 47: 608-9	Case report
69	Miyamoto K, Ishii J, Yoshihara S, et al.	小児科	Efficacy and safety of cardioversion with continuous landiolol infusion for atrial tachyarrhythmia in an inflammatory state caused by volvulus in a child with TARP syndrome and postoperative	J Arrhythm. 2018 Aug; 34: 458-61	Original Article
70	Imataka G, Yamaguchi T, Yoshihara S, et al.	小児科	MERS associated with bacterial translocation in a pediatric patient with congenital portal vein hypoplasia: A case	Exp Ther Med. 2018 Oct; 16: 2831-4	Case report
71	Ichikawa G	小児科	Persistence of obesity from early childhood onward	N Engl J Med. 2019 Jan; 380: 194	Letter
72	Sato Y, Haruta M, Yoshihara S, et al.	小児科	Paternaly inherited WT1 mutation plus uniparental disomy of 11p may be an essential mechanism for development of WT1-mutated familial Wilms	Pediatr Blood Cancer. 2019 Jan (オンライン)	Letter
73	Yoshihara S, Tsubaki T, Kato S, et al.	小児科	The efficacy and safety of fluticasone/salmeterol compared to fluticasone in children younger than four years of age	Pediatr Allergy Immunol. 2019 Mar; 30: 195-203	Original Article

74	Nukui A, Narimatsu T, Kambara T, et al.	泌尿器科	Clinically significant association of elevated expression of nuclear factor E2-related factor 2 expression with higher glucose uptake and progression of upper urinary tract cancer	BMC Cancer 18: 493, 2018. May; 18(1): 493(オンライン)	Original Article
75	Yuki H, Kamai T, Murakami S, et al.	泌尿器科	Increased Nrf2 expression by renal cell carcinoma is associated with postoperative chronic kidney disease and an unfavorable prognosis	Oncotarget 9: 28351-28363, 2018. Jun; 9(47): 28351-28363	Original Article
76	Kobayashi M, Uematsu T, Nakamura G, et al.	泌尿器科	The Predictive Value of Glycated Hemoglobin and Albumin for the Clinical Course Following Hospitalization of Patients with Febrile Urinary Tract Infection	Infect Chemother 50: 228-237, 2018. Sep; 50(3): 228-237	Original Article
77	Kobayashi M, Uematsu T, Tokura Y, et al.	泌尿器科	Immunohistochemical expression of sodium-dependent glucose transporter - 2 (SGLT-2) in clear cell renal carcinoma: possible prognostic implications	Int Braz J Urol 44: 1, 2019. Feb; 45(1): 169-178	Original Article
78	Kobayashi M, Kamai T.	泌尿器科	Carbon dioxide insufflation to control intractable bleeding during transurethral resection of bladder tumor	Indian J Urol. 2019 Jan-Mar; 35(1): 73-74	Case report
79	Nagashima K, Tominaga K, Fukushi K, et al.	消化器内科	Recent trends in the occurrence of bleeding gastric and duodenal ulcers under the Japanese evidence-based clinical practice guideline for peptic ulcer disease	JGH Open. 2018 Aug 21;2(6):255-261. doi: 10.1002/jgh3.12078. eCollection 2018 Dec.	Original Article
80	Fukushi K, Tominaga K, Nagashima K, et al.	消化器内科	Gastroduodenal ulcer bleeding in elderly patients on low dose aspirin therapy.	World J Gastroenterol. 2018 Sep 14;24(34):3908-3918. doi: 10.3748/wjg.v24.i34.3908.	Original Article

81	Kanazawa M, Sugaya T, Tominaga K, et al.	消化器内科	Jejunal Metastasis from Hepatocellular Carcinoma.	Intern Med. 2018 Apr 1;57(7):947-950. doi: 10.2169/internalmedicine.9625-17. Epub 2017 Dec 21.	Case report
82	Abe K, Iijima M, Tominaga K, et al.	消化器内科	Retroperitoneal Hematoma: Rupture of Aneurysm in the Arc of Bühler Caused by Median Arcuate Ligament	Clin Med Insights Case Rep. 2019 Feb 7;12:1179547619828716 . doi: 10.1177/1179547619828716. eCollection 2019.	Case report
83	Abe K, Tominaga K, Kanamori A, et al.	消化器内科	Safety and Efficacy of Nonanesthesiologist-Administered Propofol during Endoscopic Submucosal Dissection of Gastric Epithelial	Gastroenterol Res Pract. 2019 Jan 10;2019:5937426. doi: 10.1155/2019/5937426. eCollection 2019.	Original Article
84	Arikawa T, Toyoda S, Miyamoto M, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Microvascular endothelial function in patients with obstructive sleep apnea syndrome.	Vasc Fail 2018;2: 53-58.	Original Article
85	Kaneda H, Nakajima T, Haruyama A, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Association of serum concentrations of irisin and the adipokines adiponectin and leptin with epicardial fat in cardiovascular surgery patients.	PLoS One 2018;13: e0201499.	Original Article
86	Toyoda S, Sakuma M, Node K, Inoue T.	心臓・血管内科/循環器内科	Pleiotropic effects of calcium channel blockers.	Hypertens Res 2018 Apr ;41: 230-233.	Review
87	Inoue T, Sakuma M, Toyoda S, Node K.	心臓・血管内科/循環器内科	Role of tissue factor in vasculae failure.	Circ J 2018 Apr ;82: 1255-1257.	Review
88	Nakajima T, Koide S, Yasuda T, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Muscle hypertrophy following blood flow-restricted low force isometric electrical stimulation in rat tibialis anterior: Role for muscle hypoxia.	J Appl Physiol 2018 Jul ;125: 134-145.	Original Article

89	Kageyama M, Toyoda S, Sakuma M, et al.	心臟・血管内科/循環器内科	Theophylline-induced left ventricular relaxation disturbance in magnesium-deficient rats: Improvement by K201, a novel 1,4-benzothiazepine derivative.	Acta Cardiol Sin 2018 Sep ;34: 432-439.	Original Article
90	Abe S, Sugimura H, Watanabe S, et al.	心臟・血管内科/循環器内科	Eicosapentaenoic acid treatment based on the EPA/AA ratio in patients with coronary artery disease: follow-up data from the Tochigi Ryomo EPA/AA Trial in Coronary Artery Disease (TREAT-CAD) study.	Hypertens Res 2018 Nov ;41: 939-946.	Original Article
91	Obi S, Nakajima T, Hasegawa T, et al.	心臟・血管内科/循環器内科	Heat induces myogenic transcription factors of myoblast cells via transient receptor potential vanilloid 1 (Trpv1).	FEBS Open Bio 2018 Jan ;9: 101-113.	Original Article
92	Sakuma M, Toyoda S, Arikawa T, et al.	心臟・血管内科/循環器内科	The effects of xanthine oxidase inhibitor in patients with chronic heart failure complicated with hyperuricemia: a prospective randomized controlled clinical trial of topiroxostat vs allopurinol-study protocol.	Clin Exp Nephrol 2018 Dec ;22: 1379-1386.	Original Article
93	Sakuma M, Kishimoto S, Inoue K, et al.	心臟・血管内科/循環器内科	Low-molecular weight heparin/protamine micro-nanoparticles augmented viability of human adipose-derived regenerative cells.	Biomed J Sci & Tech Res 2018 Dec ;12:DOI:10.26717/BJSTR.2018.12.002265.	Original Article
94	Kanaya T, Noguchi T, Otsuka F, et al.		Optical coherence tomography-verified morphological correlates of high-intensity coronary plaques on non-contrast T1-weighted magnetic resonance imaging in patients with stable coronary artery disease.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging 2019 Jan ;20: 75-83.	Original Article

95	Watanabe R, Amano H, Saito F, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Echocardiographic surrogates of right atrial pressure in pulmonary hypertension.	Heart Vessels 2019 Mar ;34: 477-483.	Original Article
96	Riha Shimizu, Takanori Yasu, Atsuko Uema, Taro Hiki, Yasushi Matsushita, Hirotsugu Fukuda Toyoda, Teruo Inoue, Hirotsugu Fukuda	心臓・血管外科	Right internal jugular vein thrombosis caused by aneurysm of right-sided aortic arch	Journal of Cardiology Cases 2018 Jun, 2;17(6):220-222	Case report
97	Yusuke Takei, Keiichi Itatani, Shohei Miyazaki, Ikuko Shibasaki, Hirotsugu Fukuda	心臓・血管外科	Four-dimensional flow magnetic resonance imaging analysis before and after thoracic endovascular aortic repair of chronic type B aortic dissection	Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery 2019 Mar 1;28(3):413-420	Original Article
98	Kuwata T, Shibasaki I, Ogata K, Hori T, Ogawa H, Takei Y, Kanno Y, Fukuda H	心臓・血管外科	Cor Triatriatum in the Adult with Aortic Stenosis and Mitral Stenosis	Dokkyo Journal of Medical Sciences 2018/3	Case report
99	Yusuke Takei, Takayuki Hori, Yasuyuki Kanno, Ikuko Shibasaki, Hirotsugu Fukuda	心臓・血管外科	Modified Total Arch Debranching TEVAR with Aberrant Left Vertebral Artery	Annals of Vascular Diseases 2018 Dec 25;11(4):545-548.	Case report
100	Inami S, Moridaira H, Takeuchi D, Ueda H, Shiba Y, Asano F, Aoki H, Taneichi H	整形外科	Postoperative status of global sagittal alignment with compensation in adult spinal deformity.	Spine•2018 Dec.43(23).1631-1637	Original Article
101	Ohe M, Moridaira H, Inami S, Takeuchi D, Nohara Y, Taneichi H	整形外科	Pedicle screws with a thin hydroxyapatite coating for improving fixation at the bone-implant interface in the osteoporotic spine: experimental study in a porcine model.	J Neurosurg Spine•2018 Jun.28(6).679-687	Original Article
102	Igawa K.	皮膚科	Future trends in the treatment of atopic dermatitis.	Immunol Med. 2019 Mar;42(1):10-15.	Review

103	Kurasawa K, Arai S, Namiki Y, Tanaka A, Takamura Y, Owada T, Arima M, Maezawa R	リウマチ・膠原病内科	Tofacitinib for refractory interstitial lung diseases in anti-melanoma differentiation-associated 5 gene antibody-positive dermatomyositis.	Rheumatology, Volume 57, Issue 12, December 2018, Pages 2114-2119, https://doi.org/10.1093/rheumatology/key188	Original Article
104	Hiroshi Irisawa, Ken-ichiro Shibuya and Takashi Mizushima	リハビリテーション科学講座	Correlation of Body Composition and Nutritional Status With Functional Recovery in Patients Undergoing Stroke Rehabilitation	Stroke February 2019 - Volume 50, Issue Suppl_1	Original Article
105	Shimizu M, Suzuki K, Kato K, et al.	内分泌代謝内科	Evaluation of the effects of dapagliflozin, a sodium-glucose co-transporter-2 inhibitor, on hepatic steatosis and fibrosis using transient elastography in patients with type 2 diabetes and non-	Diabetes Obes Metab. 2019 Feb;21(2):285-292. doi: 10.1111/dom.13520. Epub 2018 Oct	Original Article
106	Iijima T, Niitani T, Tanaka S, et al.	内分泌代謝内科	Concurrent variant type 3 autoimmune polyglandular syndrome and pulmonary arterial hypertension in a Japanese woman.	Endocr J. 2018 Apr 26;65(4):493-498. doi: 10.1507/endocrj.EJ17-0465. Epub 2018 Feb 16.	Case report

計106件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 本学の倫理審査委員会について、審査の流れ・手続きについて	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象、利益相反管理委員会について、利益相反管理委員会の審査の流れ	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回（持回審査のみ）

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回（+e-learning）
・ 研修の主な内容 講習会：医学研究に関する倫理について、医師主導臨床試験の運営について e-learning教材「eAPRIN」医学研究者標準コース	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1. 初期臨床研修

当院では初期臨床研修制度に規定される、基幹型臨床研修病院（大学病院）として、2 年間の初期研修医教育を行っています。

プライマリ・ケアの習得を目的に、当院が擁する 30 診療科と臨床研修協力病院からなる病院群で研修を行うことにより、頻度の高い症例から高度医療まで網羅し、幅の広い初期臨床研修を行うことを可能としております。

当院における高度の医療に関する研修については、各診療科とも開業医及び市中病院より病診連携による紹介患者の受入れを実施しており、各種移植手術等の高難度手術適応患者の受入れや高度がん治療適用患者の受入れ、特定疾患治療等に代表される高度医療を実施し、同時に初期研修医・専攻医の診療参加および研修指導を実施しています。また、救急科研修においては当院の救命救急センターにて、救急車やドクターヘリによる 3 次救急患者（外傷・内疾患）の高度救命治療も研修カリキュラムの一環として組み込んでいます。

2. 専門研修

プライマリ・ケアを中心とした幅広い診療能力の習得を目的とする初期研修了後は、レジデントとして専門研修に続きます。

当院の専門研修は、これらの点を考慮して専門医研修が効果的に行われるように、診療各科の特徴を生かした専門研修プログラムとして、豊富な症例数と経験豊富な指導医により日本専門医機構が認定する全 19 基本領域の基幹プログラムを整備しています。また、当院では大学病院として高度医療を実施しており、サブスペシャルティ専門医資格の取得を目指す研修も可能です。

以上の研修プログラムにより専門医の育成・輩出を通じ地域医療への貢献に務めています。研修プログラム一覧は以下のとおりです。

【日本専門医機構認定 基本領域専門研修プログラム一覧（基幹プログラム）】

※歯科口腔外科を除く

- | | |
|-----------|------------------------------|
| ①内科（総合内科） | 獨協医科大学病院内科専門医養成プログラム |
| ②小児科 | 獨協医科大学病院小児科専門医養成プログラム |
| ③皮膚科 | 獨協医科大学病院皮膚科研修プログラム |
| ④精神科 | 獨協医科大学病院精神科専門医育成プログラム |
| ⑤外科 | 獨協医科大学外科専門研修プログラム |
| ⑥整形外科 | 獨協医科大学病院整形外科専門医養成プログラム |
| ⑦産科婦人科 | 獨協医科大学病院産婦人科専門研修プログラム |
| ⑧眼科 | 獨協医科大学病院眼科専門医養成プログラム |
| ⑨耳鼻咽喉科 | 獨協医科大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科専門医養成プログラム |
| ⑩泌尿器科 | 獨協医科大学病院泌尿器科専門研修プログラム |
| ⑪脳神経外科 | 獨協医科大学脳神経外科専門研修プログラム |

- ⑫放射線科 獨協医科大学病院放射線科専門研修プログラム
 ⑬麻酔科 獨協医科大学病院麻酔科専門医研修プログラム
 ⑭病理診断科 獨協医科大学病院病理専門研修プログラム
 ⑮臨床検査科 獨協医科大学病院臨床検査専門研修プログラム
 ⑯救急科 獨協医科大学病院救急科専門医研修プログラム
 ⑰形成外科 獨協医科大学形成外科研修プログラム
 ⑱リハビリテーション科 獨協医科大学病院リハビリテーション科専門医養成プログラム
 ⑲総合診療科（家庭医） 獨協医科大学病院総合診療専門医養成プログラム

口腔外科（歯科医師） 口腔外科専門医取得コース

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 100人（歯科医師含む）

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
井上 晃男	心臓・血管内科/循環器内科	主任教授	38 年	
入澤 篤志	消化器内科	主任教授	30 年	
三谷 絹子	血液・腫瘍内科	主任教授	35 年	
石光 俊彦	腎臓・高血圧内科	主任教授	38 年	
平田 幸一	脳神経内科	病院長	39 年	
麻生 好正	内分泌代謝内科	主任教授	32 年	
平田 幸一	呼吸器・アレルギー内科	病院長	39 年	診療部長代行
倉沢 和宏	リウマチ・膠原病内科	主任教授	36 年	
志水 太郎	総合診療科	主任教授	14 年	
下田 和孝	精神神経科	主任教授	36 年	
井川 健	皮膚科	主任教授	24 年	
楫 靖	放射線科	主任教授	30 年	
吉原 重美	小児科	主任教授	36 年	

小嶋 一幸	外科・小児外科 (第1外科)	主任教授	39 年	診療部長代行
窪田 敬一	外科 (第2外科)	主任教授	38 年	
林 光弘	乳腺科	学内教授	27 年	
福田 宏嗣	心臓・血管外科	主任教授	33 年	
千田 雅之	呼吸器外科	主任教授	33 年	
金 彪	脳神経外科	主任教授	39 年	
種市 洋	整形外科	主任教授	33 年	
釜井 隆男	泌尿器科	主任教授	28 年	
妹尾 正	眼科	主任教授	33 年	
春名 真一	頭頸部・耳鼻咽喉科 (耳鼻咽喉・頭頸部外科)	主任教授	34 年	
深澤 一雄	産婦人科 (産科婦人科)	主任教授	39 年	
美津島 隆	リハビリテーション科	主任教授	30 年	
朝戸 裕貴	形成外科・美容外科	主任教授	35 年	
濱口 眞輔	麻酔科	主任教授	30 年	
山口 重樹	麻酔科	主任教授	27 年	
小野 一之	救急科 (救命救急センター)	主任教授	37 年	
平田 幸一	健康管理科	病院長	39 年	診療部長代行
平田 幸一	病理診断科	病院長	39 年	診療部長代行
川又 均	歯科口腔外科	主任教授	33 年	歯科医師

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容 1

- ・平成30年度 第1回放射線部勉強会

インターネットライブセミナー

「造影剤の重篤な副作用とその対策」

日時：平成30年4月19日（木） 18：20～19：00

参加人数：43名

・研修の主な内容 2

- ・平成30年度 第2回放射線部勉強会

「放射線部における感染対策について」

～あなたは針刺し・切り傷の感染対策を知っていますか？～

日時：平成30年5月24日（木） 17：30～18：30

参加人数：45名

・研修の主な内容 3

- ・平成30年度 第3回放射線部勉強会

インターネットライブセミナー

「造影剤の体内動態から見た造影CT・MRI検査の適正化」

日時：平成30年6月5日（火） 18：00～19：00

参加人数：49名

・研修の主な内容 4

- ・平成30年度 第4回放射線部勉強会

「患者介助について」（移乗動作・体位変換）

日時：平成30年6月22日（金） 17：30～18：30

参加人数：26名

・研修の主な内容 5

・平成30年度 第5回放射線部勉強会

「各RISシステムの特徴・独自機能について」

日時：平成30年7月5日（木） 17：30～19：00

参加人数：26名

・研修の主な内容 6

・平成30年度 第6回放射線部勉強会

「ハラスメントDVD研修」（働きやすい職場づくりを目指して）

気づこう職場のセクシャルハラスメント・これってセクハラ、なぜそれがセクハラ

日時：平成30年7月23日（月）～28日（土） 15：00～17：00 実施回数：18回

参加人数：112名

・研修の主な内容 7

・平成30年度 第7回放射線部勉強会

インターネットライブセミナー

「3D-CT Angiographyにおける微細脳血管抽出のための撮影と造影法」

「正確な転移性脳腫瘍の画像診断を目指して」

日時：平成30年8月1日（水） 18：00～19：00

参加人数：26名

・研修の主な内容 8

・平成30年度 第8回放射線部勉強会

画像診断 Expert Meeting

「深部動脈血栓症および肺血栓塞栓症のCT診断」

「乳癌のマルチモダリティ診断」

日時：平成30年10月11日（木） 18：00～19：20

参加人数：32名

・研修の主な内容 9

- ・平成30年度 第9回放射線部勉強会

インターネットライブセミナー

「造影剤の安全性に関する最近の話題

～ESURガイドラインVer10.0を中心に～」

日時：平成30年10月24日（水） 17：00～18：00、18：30～19：30 実施回数：2回

参加人数：41名

・研修の主な内容 10

- ・平成30年度 獨協医科大学3病院放射線部合同研修会

「3病院役職者グループワーク」

「3病院全体グループワーク」

日時：平成30年11月17日 10：00～17：00

参加人数：24名

・研修の主な内容 11

- ・平成30年度 第10回放射線部勉強会

「第8回(平成30年度)診療放射線技師新人研修会」に参加して

○医療関係法令について

○患者接遇について

「第3回研究発表トレーニングキャンプ」に参加して

「平成30年度国公立大学病院医療技術関係職員研修」に参加して

日時：平成30年11月27日（火） 17：30～18：30

参加人数：33名

・研修の主な内容 12

・平成30度 第11回放射線部勉強会

「ハラスメントDVD研修」

(セクハラ対策と管理職の役割・部下の相談をうけるとき)

日時：平成30年12月11日～20日 15：00～17：00の中の30分 実施回数：16回

参加人数：86名

・研修の主な内容 13

・平成30年度 第12回放射線部勉強会

インターネットライブセミナー

「画像診断ガイドライン2016年版から見た肝臓CTのポイント

～診断・撮影・造影法等」

日時：平成31年1月17日（木） 18：00～19：00

参加人数：25名

・研修の主な内容 14

・平成30年度 第1回役職者研修会

「MRI造影剤：選択の指標」

日時：平成31年2月19日（火） 12：30～12：50

参加人数：17名

・研修の主な内容 15

・平成30年度 第1回役職者研修会

「MRI造影剤：選択の指標」

日時：平成31年2月19日（火） 12：30～12：50

参加人数：17名

・研修の主な内容 16

・栃木県衛生福祉大学校実習生の臨地実習報告会；平成30年7月6日 43名

・研修の主な内容 17

・第38回栃木県医学検査学会予演会No.1；平成30年9月26日 31名

・研修の主な内容 18

・第38回栃木県医学検査学会予演会 No.2；平成30年9月28日 12名

・研修の主な内容 19

・第55回日臨技関甲信支部・首都圏支部医学検査学会予演会；平成30年10月24日 24名

・研修の主な内容 20

・第65回日本臨床検査医学会予演会；平成30年11月14日 21名

・研修の主な内容 21

・第30回日本臨床微生物学会予演会、平成30年度獨協医科大学教育セミナー予演会；

平成31年1月29日 21名

・研修の主な内容 22

・帝京大学実習生の臨地実習報告会；平成31年3月15日 34名

・研修の主な内容 23

【新採用看護職員に関する研修】

・研修の期間・実施回数：平成30年 4月 7回

・研修の参加人数：742名

・研修の主な内容 24

【看護部方針説明会】

・研修の期間：平成30年 4月 1回

・研修参加人数：495名

・研修の主な内容 25

【看護研究発表会】

・研修期間：平成30年6月・平成31年1月/ 2回

・研修参加人数：763名

・研修の主な内容 26

【看護部研修会】

・研修期間：平成30年9月～平成31年3月/ 4回

・研修参加人数：475名

・研修の主な内容 27

【主任研修会】

・研修期間：平成30年4月～平成31年2月/7回

・研修参加人数：355名

・研修の主な内容 28

【専門領域】がん看護・救急看護・感染・母性・糖尿病・皮膚排泄・在宅・摂食嚥下

手術室看護・認知症看護

・研修期間：平成30年7月～12月/25回

・研修参加人数：1009名

・研修の主な内容 29

【レベルⅠa研修】看護記録・インシデント・スキンケア・災害看護等

・研修期間・実施回数：平成30年5月～11月/7回

・研修参加人数：698名

・研修の主な内容 30

【レベルⅠb研修】点滴演習・フィジカルアセスメント・終末期看護・入退院支援等

・研修期間・実施回数：平成30年5月～11月/6回

・研修参加人数：485名

・研修の主な内容 31

【レベルⅡ研修】倫理原則・ケースレポート発表会

・研修期間・実施回数：平成30年5月～11月/4回

・研修参加人数：335名

・研修の主な内容 32

【レベルⅢa研修】看護研究入門・倫理等

・研修期間・実施回数：平成30年5月～11月/4回

・研修参加人数：303名

・研修の主な内容 33

【レベルⅢb研修】看護研究論文作成

・研修期間・実施回数：平成30年5月

・研修参加人数：37名

・研修の主な内容 34

【レベルⅢc研修】看護研修発表会等

・研修期間・実施回数：平成30年5月～平成31年1月/4回

・研修参加人数：100名

・研修の主な内容 35

【看護補助者研修】看護ケア・救急蘇生・食事介助等

・研修期間・実施回数：平成30年5月～8月/4回

・研修参加人数：376名

・研修の主な内容 36

【新人看護職員指導者研修】シナリオシミュレーション

・研修期間・実施回数：平成30年4月・6月/2回

・研修参加人数：74名

・研修の主な内容 37

【新人教育実施指導者研修】シナリオシミュレーション等

・研修期間・実施回数：平成30年4月・6月/2回

・研修参加人数：125名

・研修の主な内容 38

【実習指導者研修】心がまえ・専門学校との合同研修

・研修期間・実施回数：平成30年5月～平成31年1月/4回

・研修参加人数：227名

・研修の主な内容 39

【プリセプター看護師研修】任務と業務

・研修期間・実施回数：平成30年5月

・研修参加人数：90名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容 1

・平成30年度 放射線治療センター患者急変時対応シミュレーション

日時：平成30年5月31日(木) 17:00～18:05

参加人数：11名

・研修の主な内容 2

・平成30年度 放射線部2階エリア災害対応シミュレーション

日時：平成30年6月12日(火) 17:10～17:40

参加人数：42名

・研修の主な内容 3

・平成30年度 放射線部核医学・放射線治療・PETセンター合同災害対応

日時：平成30年9月14日(金) 17:00～17:30

参加人数：8名

・研修の主な内容 4

・平成30年度 放射線治療センター患者急変時対応シミュレーション

日時：平成30年10月5日(金) 17:10～18:00

参加人数：12名

・研修の主な内容 5

- ・放射線部装置説明会

「OPE室Cアーム装置説明会・Cios Fusion」

日時：平成30年10月24日(水)～10月26日(金) 17:30～18:00 実施回数：3回

参加人数：59名

・研修の主な内容 6

- ・平成30年度 臨床実習生終了テーマ発表

「臨床実習生5名による臨床実習終了発表会」

日時：平成30年12月6日(木) 17:20～18:30

参加人数：30名

・研修の主な内容 7

- ・平成30年度 放射線部2階エリア患者急変時対応シミュレーション

日時：平成30年12月26日(水) 17:10～18:00

参加人数：25名

・研修の主な内容 8

- ・臨床検査センター全体集会、昇格者・新入職員・実習生紹介、H29 年度臨床検査センター医療安全報告会；平成30年4月4日 64名

・研修の主な内容 9

- ・ISO15189 品質マネジメントシステム（QMS）に関する研修会；平成30年4月10日 91名

・研修の主な内容 10

- ・ISO15189 感染対策研修会；平成30年4月13日 93名

・研修の主な内容 11

- ・ISO15189 倫理規定・患者情報の守秘義務；平成30年4月17日 91名

・研修の主な内容 12

- ・ISO15189 毒物・劇物管理、廃棄物管理；平成30年4月24日 93名

・研修の主な内容 13

- ・ ISO15189 ①患者急変時の対応について、②災害時・緊急時の対応；

平成 30 年 5 月 18 日 93 名

・研修の主な内容 14

- ・ ①私立医科大学研修会出張報告会

②宿日直輸血検査連絡事項 22；平成 30 年 6 月 4 日 50 名

・研修の主な内容 15

- ・ グラム染色研修会 No.2（鏡検と結果の解釈について）；平成 30 年 6 月 14 日 35 名

・研修の主な内容 16

- ・ ISO15189 QMS 品質マニュアルの見直しについて、ISO 関連見直しの今後の実施計画について；平成 30 年 6 月 21 日 56 名

・研修の主な内容 17

- ・ ①生化学検査結果の読み方の基礎、②血算における血小板数再検の考え方；

平成 30 年 6 月 26 日 38 名

・研修の主な内容 18

- ・ 血算における血小板数再検の考え方；平成 30 年 7 月 12 日 19 名

・研修の主な内容 19

- ・ 生化学検査結果の読み方の基礎；平成 30 年 7 月 20 日 15 名

・研修の主な内容 20

- ・ 緊急時の対応シミュレーション（実技講習会）一次救命処置の方法・AED の使用方法；

平成 30 年 7 月 26 日 50 名

・研修の主な内容 21

- ・ 宿直早朝時搬送システムの研修会；平成 30 年 8 月 10 日 41 名

・研修の主な内容 22

- ・ 品質管理に関する手順書変更箇所の周知について；平成 30 年 9 月 14 日 49 名

・研修の主な内容 23

- ・採血のポイント・対処法；平成30年10月10日 40名

・研修の主な内容 24

- ・①ワークライフバランスについて・労働安全衛生委員会報；平成30年11月7日 45名

・研修の主な内容 25

- ・①宿日直フォローアップ研修会、②宿日直輸血検査連絡事項23；平成30年11月28日 41名

・研修の主な内容 26

- ・コミュニケーションについて、接遇・マナーについて；平成30年12月13日 43名

・研修の主な内容 27

- ・文書管理システムについて；平成30年12月19日 31名

・研修の主な内容 28

- ・平成30年度年末年始宿日直業務連絡会；平成30年12月21日 32名

・研修の主な内容 29

- ・災害時の対応について（システムダウン対策も含めて）；平成30年12月27日 50名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 平田幸一
管理担当者氏名	庶務課 鶴見 好邦 医事保険課 賀長 隆 診療記録管理部 磯山 正司 医療安全推進センター 麻生 保 医療連携部門 藤倉 節生 感染制御センター 小川 栄一 経理課 赤間 康弘 臨床研修センター 五月女 弘実 薬剤部 本田 雅巳

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	庶務課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療記録管理部
		看護記録	診療記録管理部
		検査所見記録	診療記録管理部
		エックス線写真	診療記録管理部
		紹介状	診療記録管理部
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療記録管理部
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事保険課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事保険課
		高度の医療の研修の実績	庶務課 臨床研修センター
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携部門 医事保険課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進センター
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進センター
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進センター
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進センター

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御センター	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御センター	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御センター	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御センター	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 経理課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部 経理課	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進センター
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御センター
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進センター
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全推進センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全推進センター
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進センター
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進センター 感染制御センター
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進センター
		職員研修の実施状況	庶務課 医療安全推進センター 感染制御センター SDセンター
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進センター
		管理者が有する権限に関する状況	庶務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	庶務課
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	庶務課

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状	
閲覧責任者氏名	病院長 平田 幸一	
閲覧担当者氏名	庶務課長 鶴見 好邦	
閲覧の求めに応じる場所	事務部	
閲覧の手続の概要 ① 閲覧希望者より当院所定の申請書の提出。 ② ①により、病院長までの上申。 ③ ②により、本人確認（身分証明書等の提示）の後に情報開示。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	①・無
・ 指針の主な内容： ○医療安全管理に関する基本的な考え方 ○組織に関する基本的事項 ○医療安全管理委員会の設置に関する基本方針 ○医療安全推進センターの設置に関する基本方針 ○監査委員会による外部監査に関する基本方針 ○特定機能病院間相互のピアレビューに関する基本方針 ○医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 ○事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○医療事故発生時の対応に関する基本方針 ○高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の医療提供に関する基本方針 ○患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ○患者からの相談への対応に関する基本方針 ○その他医療安全の推進のために必要な基本方針 ○本指針の改廃	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無 (有・無) ・ 開催状況：年 1 2 回 ・ 活動の主な内容： ○医療に係る安全管理のための指針 (基本方針) に関すること ○医療安全管理委員会の規程に関すること ○医療安全対策の検討及び研究に関すること ○医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること ○医療安全対策のための職員に対する指示に関すること ○医療安全対策のために行う提言に関すること ○医療事故防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること ○監査委員会からの指摘に関すること ○内部通報窓口の設置に関すること ○医療安全に関する診療内容のモニタリングに関すること ○その他医療安全対策に関すること	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年100回

・ 研修の内容（すべて）：

○開催日；平成30年4月2日（月）

形態；新規採用者オリエンテーション（医療従事者、看護師）

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理者 鈴木佳世子

医療安全推進センター事務長 金子 一

参加者；132名

○開催日；平成30年4月4日（水）

形態；新規採用者オリエンテーション（臨床研修医）

テーマ；「医療安全講習会 臨床研修医」

「当院における個人情報保護について」

「薬剤管理について」

「医療機器の取り扱いについて」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

医療安全推進センター事務長 金子 一

参加者；56名

○開催日；平成30年4月～平成31年3月（2回／月） 全24回

形態；中途／復職者オリエンテーション

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

「薬剤管理について」

「医療機器の取り扱いについて」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理者 鈴木佳世子

医療安全推進センター 医療安全管理者 河野由江

医療安全推進センター 課長（薬剤師） 永瀬直

臨床工学部 主任 山口剛史

参加者；178名

うち、医師／レジデント／研修医 31名

その他医療従事者 147名

○開催日時；平成30年 4月4日（水）～5月31日（木） 全15回

形 態；講習会・実技研修会

講 師；獨協医科大学病院泌尿器科（医師）

テ ー マ；「尿道膀胱留置カテーテル」

参 加 者；583名

○開催日時；平成30年 6月5日（火）、7日（木） 全2回

形 態；講習会・実技研修会

講 師；獨協医科大学病院泌尿器科（医師）

テ ー マ；「尿道膀胱留置カテーテル」フォローアップ研修

参 加 者；112名

○開催日時；平成30年6月8日（金）、15日（金）、22日（金）

29日（金）、平成30年7月6日（金） 全10回

形 態；講習会・実技研修会

講 師；獨協医科大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科（医師）

テ ー マ；「気管カニューレ」

参 加 者；442名

○開催日時；平成30年 5月14日（月）

形 態；講習会（第1回医療安全講習会）

講 師；SOMPOリスクアマネジメント株式会社 医療リスクマネジメント事業部 上級コンサルタント 梶尾詩織 先生

テ ー マ；「医療紛争事例から学ぶ ～事故対応と事例紹介～」

参 加 者；794名

※上記講演会のDVD放映会 全9回

開 催 日；平成30年5月21日（月）、22日（火）、23日（水）

参 加 者；804名

○開催日時；平成30年 7月 2日（月）

形 態；講習会（第2回医療安全講習会）

講 師；患者・家族と医療をつなぐ 特定非営利活動法人「架け橋」
理事 永井裕之 先生

テ ー マ；「医療事故遺族のおもいと提言」

参 加 者；1,023名

※上記講演会のDVD放映会 全9回

開催日；平成30年7月9日(月)、10日(火)、11日(水)

参加者；976名

○開催日時；平成30年 8月27日(月)

形態；講習会(RRS講習会)

講師；聖マリアンナ医科大学病院

救急医学教授 藤谷茂樹 先生

テーマ；「院内早期治療介入システムが医療安全文化を変える」

参加者；211名

○開催日時；平成30年 9月 3日(月)

形態；講習会(第3回医療安全講習会)

講師；獨協医科大学 教育支援センター 医事法制研究室

講師 上杉奈々 先生

テーマ；「インシデント事例から学ぶ個人情報の保護と適切な取扱い」

参加者；418名

※上記講演会のDVD放映会 全9回

開催日；平成30年9月10日(月)、11日(火)、12日(水)

参加者；102名

○開催日時；平成30年11月12日(月)

形態；講習会(第4回医療安全講習会)

講師；杏林大学医学部麻酔科学教室 主任教授 萬知子 先生

テーマ；「酸素療法 ～酸素ボンベと酸素療法器具～」

参加者；206名

※上記講演会のDVD放映会 全9回

開催日；平成30年11月19日(月)、20日(火)、21日(水)

参加者；134名

○開催日時；平成31年 1月 8日(火)

形態；M&Mカンファレンス

担当科；消化器内科

テーマ；「麻薬使用中に転倒し、急性硬膜外血腫を発症した事例」

参加者；108名

○開催日時；平成31年 1月21日(月)

形 態；講習会（第5回医療安全講習会）

講 師；辰元宗人（医療安全管理部門長）、本田雅巳（医薬品安全管理責任者）、山口剛史（臨床工学部主任）、福島篤仁（感染制御センター副センター長）、松浦美和（感染制御センター師長）

テ ー マ；「医療安全・感染防止対策合同講習会～外部立入検査等の指摘事項に対する当院の対応状況について～」

参 加 者；724名

※上記講演会のDVD放映会 全9回

開 催 日；平成31年 1月29日(月)、30日(火)、31日(水)

参 加 者；394名

○開催日時；平成31年 2月27日(月)

形 態；研修・発表会

テ ー マ；リスクマネジャー小委員会「平成30年度 RM小委員会における活動内容報告会」

・希釈注射薬検討会、・転倒・転落、・CVCガイドライン

・抑制、・ハイリスク薬、・院内ラウンド

参 加 者；134名

○ビデオ視聴

形 態；医療安全推進センター管理ビデオ視聴

視聴者数；860名(令和元年6月30日現在)

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（☒有・無）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 1) 標準化・規則化等の推進
 - 2) 定期的な医療安全管理部門広報（ニュースレター）の発行（1回/月）
 - 3) 病院幹部、医療安全管理委員会委員による院内ラウンド
 - 4) 医療安全講習会の理解度確認のためにe-ラーニングの導入
 - 5) 必要に応じたRCA分析、PARM分析の実施

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	①・無																								
・ 指針の主な内容： 制定 平成 19 年 10 月 1 日 改訂 平成 24 年 1 月 18 日 改訂 平成 27 年 10 月 1 日 改訂 平成 30 年 4 月 1 日 改訂 平成 31 年 2 月 1 日 ○院内感染防止対策に関する基本的な考え方 ○院内感染防止に関する基本的事項 ○院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 ○感染事例報告などの医療にかかわる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針 ○患者さん等に対する当該指針の閲覧にする基本方針 ○患者さんからの相談への対応に関する基本方針 ○その他医療安全の推進のために必要な基本方針																									
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回																								
・ 活動の主な内容： 1) 院内ラウンドの報告 2) 病原体の検出報告 (MRSA、緑膿菌、血液培養陽性、薬剤耐性菌、CDの検出状況等) 3) 感染症治療薬使用状況 (毎月抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬、第4世代セフェム系抗菌薬、抗真菌薬) 4) ASTからの注意喚起 5) 出感染症等の発生報告 6) その他 開催状況： <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>平成30年4月24日</td> <td>第7回</td> <td>平成30年10月30日</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>平成30年5月29日</td> <td>第8回</td> <td>平成30年11月28日</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>平成30年6月26日</td> <td>第9回</td> <td>平成30年12月25日</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>平成30年7月31日</td> <td>第10回</td> <td>平成31年1月29日</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>平成30年8月28日</td> <td>第11回</td> <td>平成31年2月26日</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>平成30年9月25日</td> <td>第12回</td> <td>平成31年3月26日</td> </tr> </table>		第1回	平成30年4月24日	第7回	平成30年10月30日	第2回	平成30年5月29日	第8回	平成30年11月28日	第3回	平成30年6月26日	第9回	平成30年12月25日	第4回	平成30年7月31日	第10回	平成31年1月29日	第5回	平成30年8月28日	第11回	平成31年2月26日	第6回	平成30年9月25日	第12回	平成31年3月26日
第1回	平成30年4月24日	第7回	平成30年10月30日																						
第2回	平成30年5月29日	第8回	平成30年11月28日																						
第3回	平成30年6月26日	第9回	平成30年12月25日																						
第4回	平成30年7月31日	第10回	平成31年1月29日																						
第5回	平成30年8月28日	第11回	平成31年2月26日																						
第6回	平成30年9月25日	第12回	平成31年3月26日																						
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	全教職員 年6回																								
・ 研修の内容 (すべて)： ○研修医オリエンテーション 日 時： 平成30年4月9日 (月) 15時～17時 平成30年4月11日 (水) 9時～17時 場 所： 教育医療棟6階シミュレーション講義室 内 容： 講義 「抗酸菌について」・「抗菌薬の基礎」 「血液培養について」・「知っておくと便利な臨床微生物」 「症例報告 (カテ感染・空気感染)」 演習 「シリンジ採血」・「翼状針採血」・「末梢静脈穿刺」 「自分にあったN95マスクを知ろう」・「針刺しについて」 「血培すごろく」・「ジャンプスーツの正しい着脱」・「事例検討」 受講者：57名 (医師：51名、歯科医師：6名) ○採用者 (復帰者) オリエンテーション 開催日：毎月1日 (休みの場合は、翌日)																									

時 間：13時30分～13時50分など
受講者：医師：31名、医師以外：155名（派遣含む：22名）

○感染防止対策講習会

第1回 日 時：平成30年5月1日（火）17時10分～18時10分
場 所：関湊記念ホール
内 容：[知っておきたい、目の感染症]
講 師：鈴木 重成（獨協医科大学病院 眼科学 講師）
受講者：814名

第2回 第1回講習会のDVD放映会（知っておきたい、目の感染症）
日 時：平成30年6月13日（水）13時30分～14時20分
15時30分～16時20分
17時30分～18時20分
場 所：臨床医学棟10階講堂
受講者：424名

第3回 日 時：平成30年7月24日（火）17時～18時10分
場 所：関湊記念ホール・臨床医学棟10階講堂
内 容：[アウトブレイク事例から学ぶ感染制御]
講 師：山岸 由佳（愛知医科大学病院 感染症科 教授）
受講者：570名

第4回 第3回講習会のDVD放映会（アウトブレイク事例から学ぶ感染制御）
日 時：平成30年11月5日（月）13時30分～14時20分
15時30分～16時20分
17時30分～18時20分
場 所：関湊記念ホール
受講者：552名

第5回 日 時：平成31年1月21日（月）17時10分～18時10分
場 所：関湊記念ホール、300番教室、臨床医学棟10階講堂
内 容：[外部立入検査等の指摘事項に対する当院の対応状況について]
講 師：辰元宗人（医療安全管理部門長）
本田雅巳（医薬品安全管理責任者）
山口剛史（臨床工学部主任）
福島篤仁（感染制御センター副センター長）
松浦美和（感染制御センター師長）
受講者：724名

第6回 第5回講習会のDVD放映会（外部立入検査等の指摘事項に対する当院の対応状況について）
日 時：平成31年1月29日（火）11時30分～12時20分、15時00分～15時50分
平成31年1月30日（水）11時30分～12時20分、15時00分～15時50分
平成31年1月31日（木）11時30分～12時20分、15時00分～15時50分
場 所：臨床医学棟10階講堂
受講者：394名

平成30年度感染防止対策講習会記録DVD貸出視聴
貸出期間：平成31年04月1日～令和元年5月31日
延べ視聴者：1,065名

○委託業者対象講習会（清掃、リネン、売店、警備等勤務者）

日 時：平成30年11月12日（月）、13日（火）、15日（木）、19日（月）、20日（火）
21日（水）、22日（木）、27日（火）、28日（水）、29日（木）
平成30年12月 4日（火）、 6日（水）、11日（火）
10時30分～、12時20分～、15時00分～、18時00～（各30分間）
場 所：教育医療棟7階シミュレーション講義室他
内 容：「つけない・ひろげない・うつさない・刺さない」
講 師：星野 三奈（感染制御センター・感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師）

松浦 美和（感染制御センター・感染制御実践看護師）
受講者：402名

○看護部ICT定例会

（看護部ICT講習会）
日 時：平成30年9月28日（金）16時30分～17時30分
場 所：病院3階大会議室
内 容：「医療器具関連サーベイランスの基本的知識」
講 師：星野 三奈（感染制御センター・感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師）
受講者：40名

○放射線部勉強会

（放射線部技師・看護師対象講習会）
日 時：平成30年5月24日（木）17時30分～18時30分
場 所：教育医療棟7階シミュレーション講義室
内 容：「放射線部における感染対策について」～実践！感染対策～
講 師：早川千亜紀（感染制御センター・感染制御実践看護師（兼務））
受講者：45名

（臨床実習学生対象講習会）
日 時：平成30年9月25日（火）15時00分～16時00分
場 所：放射線部前会議室
内 容：「実践！感染対策」および演習「手洗い」
講 師：岡本 友紀（感染制御センター・感染制御認定臨床微生物検査技師）
受講者：5名

○三病院リハビリテーション領域合同研修会

日 時：平成30年11月10日（土）16：00～18：00
場 所：獨協医科大学病院
内 容：「リハビリテーション領域における感染対策」
講 師：星野 三奈（感染制御センター・感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師）
受講者：34名（壬生：10、埼玉：18、日光：6）

○新入職員オリエンテーション

日 時：平成31年3月14日（木）10：50～11時50分
場 所：大学教室棟120番教室
内 容：感染制御センターからのメッセージ
講 師：星野 三奈（感染制御センター・感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師）
松浦 美和（感染制御センター・感染制御実践看護師）
受講者：171名（埼玉医療センター：4名、日光医療センター：3名含め）

日 時：平成31年3月26日（水）・27日（木）10：50～11時50分
場 所：大学2階会議室
内 容：感染制御センターからのメッセージ
講 師：星野 三奈（感染制御センター・感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師）
受講者：6名

○学生アルバイトオリエンテーション

日 時：平成30年5月16日（火）、25日（金）
平成30年7月24日（火）、26日（木）、27日（金）
平成31年2月 8日（金）、12日（火）
15：00～、15：50～、16：20～、16：30～（各25分）
場 所：専門学校、看護学部棟、大会議室、看護部研修室、
内 容：病院でアルバイトをする方へのお願い
講 師：星野 三奈（感染制御センター・感染症看護専門看護師・感染管理認定看護師）
松浦 美和（感染制御センター・感染制御実践看護師）
山崎 晃代（感染制御センター・感染制御実践看護師）
畠山 享美（感染制御センター（兼）・感染制御実践看護師）
受講者：111名

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染症起因菌検出時に臨床検査センターから主治医および感染制御センターへ、その都度報告される。

その感染症の届出を要するものについて、速やかに提出されない場合、感染制御センターから主治医へ届出提出を促している。

感染症管理支援ライブラリーにより電子カルテ上で患者の菌検出情報、抗菌薬使用状況等を把握し感染症の患者情報が迅速に得られ、医師、看護師の感染対策が早期に開始されている。また、入院患者および職員の感染症罹患情報を「健康観察把握票」に記載し、随時感染制御センターへ提出することになっている。

感染制御センターでは「健康観察把握票」をもとに感染対策状況を確認し、指導している。

感染症届出の手順について、全ての職員に配付している「医療安全管理マニュアル（ポケット版）」に明記している。

職員に対して周知・伝達が必要な情報等は I C T ニュース等により情報提供をしている。また、平成31年3月から学内専用ホームページを開設して①院内感染防止対策マニュアル、②感染防止講習会日程表、③ I C T ニュース並びに抗菌薬適正使用支援チーム (AST) からの注意喚起を掲載し情報提供している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容： ① ヒューマンファクターの基礎知識 ～医薬品の正しい使用のために～ ② スペシャルポピュレーション（腎・肝機能低下、高齢者）への抗がん薬の用量調節 ③ 医薬品副作用被害報告制度について ④ 医薬品の安全な使用について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (①・無) ・ 業務の主な内容： ○手順書の内容 医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、在宅患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・提供、手術・麻酔部門、救命救急センター及び集中治療室、輸血・血液管理部門、生命維持管理装置領域、臨床検査部門、画像診断部門、歯科領域、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）、院内製剤、未承認・適応外および禁忌等の使用について。 ○実施状況 手順書に従って業務を行なっているか、担当の薬剤師が各部署の実施状況を、チェック表をもとに、最低1年に1回調査する。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (①・無) ○添付文書 ・ IF（インタビューフォーム） ・ 製薬メーカー医薬品情報センター ・ 文献 ○製薬メーカーMR ・ 製薬企業ホームページ ・ PMDAからの情報 ・ 行政からの通知文書 ○取引卸からの情報 ・ 取引卸のホームページ ・ インターネット情報 ・ 未承認等の医薬品の使用の情報の収集 ○未承認等の医薬品の使用の際には、「新規医療技術等管理部門」に届け出る。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○散剤監査システムの導入により、散剤の調剤過誤防止と調剤記録の保存が可能となった。 ○一包化錠剤仕分け装置「TABSORT」の導入（分包された錠剤を再利用する仕分け作業に伴う仕分けミス、戻しミスがなくなる。）	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	①・無																
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 3 8 回																
・ 研修の主な内容： <table><tr><td>医療機器安全使用研修</td><td>3 回</td><td>閉鎖式保育器</td><td>2 回</td></tr><tr><td>人工心肺及び補助循環</td><td>6 回</td><td>診療用高エネルギー放射線発生装置</td><td>6 回</td></tr><tr><td>人工呼吸器</td><td>8 回</td><td>診療用放射線照射装置</td><td>7 回</td></tr><tr><td>血液浄化装置</td><td>4 回</td><td>除細動装置</td><td>2 回</td></tr></table>		医療機器安全使用研修	3 回	閉鎖式保育器	2 回	人工心肺及び補助循環	6 回	診療用高エネルギー放射線発生装置	6 回	人工呼吸器	8 回	診療用放射線照射装置	7 回	血液浄化装置	4 回	除細動装置	2 回
医療機器安全使用研修	3 回	閉鎖式保育器	2 回														
人工心肺及び補助循環	6 回	診療用高エネルギー放射線発生装置	6 回														
人工呼吸器	8 回	診療用放射線照射装置	7 回														
血液浄化装置	4 回	除細動装置	2 回														
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況																	
・ 医療機器に係る計画の策定 (①・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 保守点検計画策定表に基づく定期点検の実施・管理 機種ごとの日常点検の実施・管理																	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況																	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器に関するインシデントレポートの再検討を実施し、さらに改善の余地があれば医療安全管理委員会にて議題として提出している。																	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	①・無
・責任者の資格 (医師・歯科医師) ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 当院では、医療安全管理を担う部門として平成14年10月1日に「医療安全管理部（現；医療安全推進センター）」を設置し、副院長（医療安全推進担当）が当該部門長として医療安全推進センター及び医療安全管理委員会に係る業務を統括してきた。その後、医療法施行規則の一部を改正する省令（医政発0610第18号）が平成28年6月10日付けで施行され、医療に係る安全確保の観点から特定機能病院の承認要件の見直しが図られたことを受け、上記の者を従来の統括業務に加え、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の安全管理業務全般をも統括する“医療安全管理責任者”として位置づけ、新たに平成28年9月1日付けで人事発令（病院長名）を行った。今後とも、医療法施行規則の一部を改正する省令を遵守し、特定機能病院として更なる高度で安全な医療の提供が実施できるよう体制整備に取り組むこととしている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	②（9名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ○整理は、DI業務（Drug Information Services）として医薬品情報担当者を配置し実施している。 ○周知は、電子カルテ内に「薬剤部」のページを作り情報周知に役立てている。 ○採用医薬品については3年毎に「医薬品集」を発行し院内医療職へ配布。その間は（追補版を作成し配布） ○院内の各部署、診療科より代表者メールを管理し、メーリングリストを作成し配信 ○院内庶務課より、院内の各部署、診療科へ書面を作成し送付 ○緊急性の高い緊急安全性情報、安全性情報については情報入手後、前記2ルート（メール配信、書面での送付）と共に、電子カルテ薬剤部ページへの掲載。並びに、過去3か月に遡り対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注意喚起を行う。 ○医薬品・医療機器等安全性情報に掲載された「重要な副作用等に関する情報」についても同様に過去3か月に遡り、対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面にて注意喚起を行う。また、薬事委員会の席でも報告事項として案内する。 ○医薬品の回収命令についても前記同様な対応を実施。	

○メーカーによる不良品・事故品の回収情報は、医療安全管理責任者（医療安全推進センター）を通じて病院長へ報告。

○自主回収、製造販売中止などの情報については、院内配置在庫の回収、薬剤部在庫の確認を経て随時実施する。

・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

○使用希望の診療科の長は、「医療安全推進センター」内の「新規医療技術等管理部門」に申請してもらい、「未承認新規医薬品評価委員会」または「未承認新規医療機器評価委員会」で審議された後、「新規医療技術等管理部門」で許可、症例把握するシステムを実施。

・ 担当者の指名の有無（☒有・無）

・ 担当者の所属・職種：

（所属：新規医療技術等管理部門 職種：医師） 3名

（所属：新規医療技術等管理部門 職種：薬剤師） 3名

（所属：新規医療技術等管理部門 職種：看護師） 2名

（所属：新規医療技術等管理部門 職種：臨床工学技士） 1名

（所属：新規医療技術等管理部門 職種：事務） 5名

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

☒有・無

・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（☒有・無）

・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：平成28年9月1日付けでインフォームド・コンセント責任者（以下、「責任者」という。）、各部門等にインフォームド・コンセント担当者を配置した。また、平成31年1月1日付けで責任者が委員長を務めるインフォームド・コンセント委員会（以下、「IC委員会」という。）を設置し、各診療科等が作成するインフォームド・コンセントに必要な説明書、同意書、説明用補助資料の内容が、病院が定める所定様式、又は説明に必須となる事項等の基準を満たしているかなど、一元的に審査・管理する体制を構築した。IC委員会では、承認後の説明・同意の状況について、当院が規定する手順に沿って適切な説明が行われているかの遵守状況を電子カルテ上で2ヶ月毎にモニタリングし、適切でない事例が認められた場合は当事者に対して必要な指導を行うとともに、ケースに応じて院内通知又は研修会等で取り扱うなど、周知・徹底に努めることとしている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	⑤・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ① 診療記録管理委員会への診療情報管理士による入院カルテの点検結果報告と改善要請 ② 医師による退院サマリーの作成状況の把握と早期な作成要請 ③ 医療クランクによる書類作成等の医師事務補助作業の実施状況の確認 ④ 書類のスキャニング及び当該文書等の取扱状況（量）の把握 ⑤ 電子化されていない診療録等の適切な保管スペースの確保と整理	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	⑥・無
・所属職員：専従（ 11 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 2 ）名 うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 1 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 3 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： ○インシデント・アクシデント・死亡・院内急変情報の収集、分析と改善案の立案に関すること ○改善策の依頼、助言、実施及び評価に関すること ○医療事故防止対策マニュアルに関すること ○職員の医療安全管理に対する意識の向上や指導等に関すること ○発生した医療事故への対応に関すること ○医療安全推進のために必要な施策等の調査及び研究に関すること ○日本医療機能評価機構並びに県内の医療機関と県南健康福祉センター・厚生労働省関東信越厚生局指導監査部門。医療監視との情報交換 ○医療事故等に関する患者及び家族への対応 ○定期的に院内を巡回し、各部門における医療安全対策の状況を把握、分析し、具体的対策を推進すること ○その他医療安全管理に関すること 毎日インシデント報告分析支援システムを確認し、不備があればリスクマネージャーに差し戻し、場合によっては電話して状況を確認しており、事例に関するカンファレンスにも出席して、インシデント防止に努めている。 ※平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準をみたしていることについて説明すること。 ※医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（８件）、及び許可件数（８件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒・無）
- ・ 活動の主な内容
 - 申請書の受付／申請書の不備確認
 - 評価委員会の開催通知／審査結果通知等の発送
 - 承認後のモニタリング
 - 審査資料等の保管（申請書／実施計画書／議事録／遵守状況の確認記録等）
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（５件）、及び許可件数（５件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - 申請書の受付／申請書の不備確認
 - 評価委員会の開催通知／審査結果通知等の発送
 - 承認後のモニタリング
 - 審査資料等の保管（申請書／実施計画書／議事録／遵守状況の確認記録等）
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 7 5 7 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 3 3 6 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

《所掌業務》

- 医療安全対策の検討及び研究に関すること
- 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること
- 医療安全対策のための職員に対する指示に関すること
- 医療安全対策のために行う提言に関すること
- 医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること
- その他医療安全対策に関すること

《具体的業務》

- インシデント・アクシデント報告書及び問題（又は問題となりうる）事例届を収集し、事例ごとに分類し、さらに発生要因の分析を行い、事故の防止策を検討する。
- 検討を行った医療安全対策を病院長に報告するとともに、職員に周知し、安全策の具体的方策の指示を行う。
- 医療安全対策のための教育及び研修を行う。
- 医療事故安全対策のためのマニュアルを作成する。
- インシデント・アクシデントの報告は、原因分析から安全対策作成のための大きな教訓となることから、これらの情報収集が重要となるが、報告者が不利益を被らないよう配慮する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：帝京大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：帝京大学医学部附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

【指摘事項】

- 1) インフォームド・コンセントに関して、説明文書等を統一書式にし、承認組織の整備の上で一括管理された方が望ましい。
- 2) 放射線画像の見逃しについては、社会的な問題にもなっており、放射線科医からの緊急連絡の他にも包括的なシステムの構築を考えていただきたい。

【対応状況】

- 1) 既に病院として、所定の同意書・説明書・説明用補助資料の様式、並びに同意・説明の範囲を定め統一した運用に努めているが、新たに、承認・一括管理する仕組みとして、インフォームド・コンセント委員会を設置し、承認責任者の明確化を図った。
- 2) 令和元年9月の電子カルテシステム更新に合わせ、放射線画像読影システム（既読管理機能）を

導入し、運用を開始している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

病院1階の地域連携・患者サポートセンター医療福祉相談部門内に“患者相談窓口”を設置し、専従の医療ソーシャルワーカーを配置している。患者からの相談内容に応じて、医療安全管理を担う「医療安全推進センター」との連携体制を構築している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

上記「規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置」内「③医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況」のとおり

(注) 前年度の実績を記載すること(⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

○研修会名；平成30年度 医療対話推進者養成セミナー「医療コンフリクト・マネジメントアプローチ」

研修日程；平成30年5月12日

○研修会名；2018年度第1回患者安全推進地域フォーラム in 北里 PSP

研修日程；平成30年5月19日

○研修会名；平成30年度国公立大学附属病院医療安全セミナー

研修日程；平成30年5月30日・31日

○研修会名；医療安全倫理・モラル研修会2018

研修日程；平成30年6月17日

○研修会名；2018年度第1回薬剤安全セミナーin岡山 PSP

研修日程；平成30年7月20日

○研修会名；2018年度第1回院内自殺の予防と事後対応のための研修会 PSP

研修日程；平成30年8月10日・11日

○研修会名；看護安全技術研修会2018(横浜)

研修日程；平成30年8月25日

○研修会名；平成30年度医薬品安全管理責任者等講習会

研修日程；平成30年10月5日

○研修会名；医療安全に関するワークショップ

研修日程；平成30年12月3日

○研修会名；2018年度第2回 検査・処置・手術セミナー「画像診断報告・病理診断報告の確実

な伝達」

研修日程；平成30年12月10日

○研修会名；第10回業務工程図・医療事故情報収集等事業研修会

研修日程；平成30年12月16日

○研修会名；第9回RRS研究会

研修日程；平成30年12月22日

○研修会名；第5回日本医療安全学会学術総会

研修日程；平成31年2月9日～10日

○研修会名；2018年度 患者安全推進全体フォーラム

研修日程；平成31年3月10日

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第 7 条の 2 第 1 項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準 - 基準の主な内容 臨床医学の講座主任教授 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 - 基準に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ 無) - 公表の方法 規程集に掲載している。

規則第 7 条の 3 第 1 項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ・ ☒ 無			
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無) - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無) - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無) - 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		①・無	
・合議体の主要な審議内容 病院の管理運営に関する重要事項を審議するため、病院運営委員会を設置し、以下の事項を審議している。 (1) 病院の経営に関する事項 (2) 病院の運営に関する事項 (3) 病院の将来計画に関する事項 (4) 病院の診療体制に関する事項 (5) その他診療に関する事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 毎月、診療部長会・病院連絡会を開催し、概要を報告している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ ①・無 ） ・公表の方法 規程集に掲載している。 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・① ）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
吉田 謙一郎		医師	学長
若松 昭豊		事務	事務局長
佐山 静江		看護	統括看護部長
平田 幸一	○	医師	病院長
窪田 敬一		医師	副院長
麻生 好正		医師	副院長
千田 雅之		医師	副院長
本田 雅巳		薬剤	薬剤部長
秋元 ますえ		看護	看護部長
坂本 悦男		事務	事務部長
中林 泰信		事務	事務部次長
鶴見 好邦		事務	庶務課長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）
- ・ 公表の方法

規程集に掲載している。

- ・ 規程の主な内容

獨協医科大学病院規程第2条第3項：病院の管理運営をつかさどり、所属職員を統括する。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副院長：医療安全推進、院内感染防止対策、ロボット手術支援

院長補佐：研修医対応、新専門医制度、医療連携

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

管理職研修会を毎年開催し、本学の方針に則った共通認識のもと人材育成を図っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
・監査委員会の開催状況：年2回 ・活動の主な内容： 大学病院内における医療安全管理業務の執行状況を監査している。 ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無) ・委員名簿の公表の有無 ((有)・無) ・委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無) ・監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・公表の方法： ホームページにより公開 (http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/info/68/2954.html)					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
十川 康広	上都賀総合病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ (無)	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者 その他の学識経験を有する者
菊池 不佐男	菊池法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・ (無)	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者 その他の学識経験を有する者
飯島 一彦	下野新聞社 常務取締役		医療を受ける者の代表者	有・ (無)	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
美津島 隆	獨協医科大学 リハビリテーション科学 教授		医療に関する学識経験者	(有)・無	その他
久保田 一徳	獨協医科大学病院 放射線部教授		医療に関する学識経験者	(有)・無	その他

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

学園内部監査室による監査の他、定期的な監事監査を実施している。

・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)

・ 公表の方法

規程集に掲載している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 - 理事会にて管理運営状況を監督している。 ・ 会議体の実施状況（ 年 7 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年 7 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 - 規程集に掲載している。			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 通報件数（年 0 件）
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 周知の方法
医療事故防止対策マニュアルへの記載。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	⑦・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人 日本医療機能評価機構 訪問審査受審(一般病院3) : 平成30年9月20日(木)～22日(土)の3日間	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	⑦・無
・情報発信の方法、内容等の概要 栃木県保健医療計画(7期計画)に基づき、がんの医療、脳卒中の医療、心筋梗塞の医療、糖尿病の医療、救急医療、災害医療、周産期医療及び小児医療を主に地域における当院の役割と基本方針に定め、啓発ポスターの院内掲示やHP、ラジオ等での情報発信をはじめ、他の医療機関関係者並びに地域住民に対して研修会やセミナーを開催している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	⑦・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ハートセンターなど、心臓・血管疾患診療に携わる当院3診療科(心臓・血管内科、循環器・腎臓内科、心臓・血管外科)の医師が、医療従事者とともに各診療科の枠組みを超え、一致協力して診療を行っており、これまで以上に急性期医療から心臓リハビリテーションに至るまで、質の高い医療を多くの患者様に提供しているほか、近年では糖尿病センター、ロボット手術支援センター及びアレルギーセンターを設置するなど、中央部門に22センターを整備し各診療科が密接な連携を取り、患者様により分かりやすく安全な医療を提供するため、積極的なセンター化に取り組んでいる。	

(様式第 8)

獨医大病庶発第 49 号
令和 1 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 獨協学園
理事長 吉田 謙一

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

管理職員研修について、以下の通り予定しておりますことをご報告申し上げます。

○管理者（病院長：平田幸一）

研修会名；2019年度特定機能病院管理者研修

研修日程；令和1年10月27日～28日

主催；公益財団法人 日本医療機能評価機構

○医療安全管理責任者（副院長、医療安全推進センター長：窪田敬一）

研修会名；2019年度特定機能病院管理者研修

研修日程；令和2年2月12日

主催；公益財団法人 日本医療機能評価機構

○医療機器安全管理責任者（臨床工学部長、新規医療技術等管理部門長：小野一之）

研修会名；2019年度特定機能病院管理者研修

研修日程；令和2年2月12日

主催；公益財団法人 日本医療機能評価機構

○医薬品安全管理責任者（薬剤部長、新規医療技術等管理部門副部門長：本田雅巳）

研修会名；2019年度特定機能病院管理者研修

研修日程；令和2年2月12日

主催；公益財団法人 日本医療機能評価機構

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置